

諸會

報道其都度

博覽會共進會集談會其他農商工事ニ關スル諸會開設アル  
其ハ其開閉期日及出品談話ノ景況等ヲ報道スヘシ

但シ書式ハ明治十七年二月當府乙第四拾五號達ニ準據ス  
ヘシ

乙第百五號 五月廿八日 郡區

明治十七年十月本府乙第二百廿三號達自今相廢候條此旨相  
達候事 (租税金既未納調書ノ件)

乙第百六號 五月三十一日 郡區町村

食物ニ覆ヲ爲ス義ニ付別紙之通及告諭候條其旨趣貫徹候  
様注意可致此旨相達候事  
告諭五

蒼蠅ハ好シテ汚穢物又ハ食物ニ付着スル者ニシテ其集散  
ノ時ニ傳染性ノ病毒ヲ齎ラシ自然蔓延ノ媒介ヲ爲シ衛生  
上實ニ有害ノ物ナリ依テ自今虎列刺病流行ノ際厚ク注意  
シ病毒傳播ノ防禦ヲ勉メ慘害ヲ免カレサル可カラス故ニ  
店頭ニ陳列シ販賣スル食品ニシテ烹煮ノ儘又ハ洗淨或ハ  
烹煮セスシテ直ニ食用ニ供スヘキ品類ハ都テ紹紗又ハ硝  
子板ノ類ヲ以テ必ス覆ヲ爲ス可シ此旨告諭ス

乙第百七號 五月卅一日 郡區町村

歲入歲出納規則第一條中第二部歲入之内本府所管ニ係  
ル徵收金取扱規程左ノ通相定候條此旨相達候事  
但從前國庫ノ收納ニ係ル雜收入金取扱諸達書中本規程  
ニ抵觸スル廉自今廢止ス

十九年

第二部歳入金取扱規程

第一條

第二部歳入金ハ本年當府乙第七十三號達ノ科目ニ據リ本廳會計主務官ヨリ納額告知書ヲ發付シ其徵收額ヲ納付セシムルモノトス

第二條

諸拂下其他處分方特ニ郡區役所ニ委任スルモノ又ハ郡區役所限リ處分セシ事件ノ徵收金ニシテ第二部歳入ニ編入スヘキ員額アルキハ其處分ノ時々納額告知書要求ノ爲メ第一號式報告書ヲ調製シ會計課ニ差出スヘシ

第三條

前條ノ徵收額及本廳ニ於テ直接處分スルモノハ内納金者隔地ニ散在スルモノ等渾テ納額告知書ハ會計主務官ヨリ所轄郡區役所ニ發付シ當該郡區役所ニ於テ

徵收ヲ監査セシムルモノトス

第四條

本廳ニ於テ處分スルモノト郡區役所限リ處分スルモノトナ問ハズ渾テ一科目内ノ納額ニシテ數名全時ニ納金スルモノアルキハ歳入取扱順序第十五條ニヨリ總代若シハ代理納人ヲシテ納金セシムルヲ得然レモ此場合ニ於テハ正當納金者及ヒ代理者ノ住所姓名等取調納額告知書發付以前郡區役所ヨリ會計課ニ申出ヘシ

第五條 郡區役所ハ會計主務官ヨリ納額告知書ノ發付ヲ得タレハ第貳號式徵收監査簿ニ據リ歳入取扱順序第十五條ノ手續ヲ執行シ納人ヲシテ現金ヲ國庫金取扱所ニ納金セシムヘシ

第六條

前條納金濟國庫金取扱所ヨリ上納副書ヲ領收シ

十九年

ナレハハ歳入取扱順序第五十五條ノ手續ヲ履行シ該上納副書ハ其時々會計課へ返付スヘシ

第七條 郡區役所ニ於テハ納額告知書ニ記載アル納期内ニ納金セサルモノアルトキハ其事由取糺シ納人ヨリ書面ヲ徴シ會計課へ差出スヘシ

第八條 第二條報告書若クハ第三條納額告知書ノ金員等誤記アルコトヲ發見シタルトキハ納額告知書納人へ配付以前會計課へ訂正方ヲ照會スヘシ

第九條 既納ノ員額ニ對シ過誤納アリテ下戻ヲ要スルハ歳入取扱順序第五十條ニ準シ其事由ヲ具シ拂戻ヲ請求シ追テ會計主務官ヨリ拂戻證書ノ交付ヲ受クルトキハ全順序第五十一條ニ準シ受取人へ交付スヘシ

用紙半紙罫紙

何年度第貳部歳入金報告書

一金

(目)

内譯

金 (一種品毎) 何年何月何日納(節)

但何町字何何々品拂下代(一種品ニシテ貳個)何町村  
右當廳ニ於テ處分候付納額告知書并正副上納書等御送付  
有之度此段及報告候也

第壹號式

何年度

京都府會計課宛

何郡區役所

十九年

第貳部歳入金徴收監査簿

三百八十

用紙西ノ内紙

區郡 役 所

〇ハ卷ニ同

<p>指令明治何年何月何日處 分 濟明治何年何月何日</p> <p>地名何區郡何町何字何 納 期明治何年何月何日</p> <p>品目何々 數何拾何個 納副書領收明治何年何月何日</p> <p>納額金何百何十何四何十何錢何厘 本壹個 = 付金何圓何拾何錢何厘</p> <p>納額告知書番號第何號傳 達明治何年何月何日 收納所 何地國庫金取扱所</p>	<p>納金者何區郡何組何町何野某番號</p> <p>住所姓名</p> <p>要 摘</p> <p>壹</p>
<p>全上</p>	<p>全上</p>

第貳號甲式

十九年

<p>考 備</p>	<p>全上</p>	<p>全上</p>
<p>用紙西ノ内紙</p>	<p>全上</p>	<p>全上</p>

三百八十一

徵收前後	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	前		後	
								月	日	月	日
徵收前	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	至	自	至	自
收後	月數	月	月	月	月	月	月	年	年	年	年
國庫金取扱所	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	期	期	期	期
國庫金取扱所	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	納額告知書	納額告知書	納額告知書	納額告知書
副書	領收	領收	領收	領收	領收	領收	領收	日	日	日	日

第貳號乙式

貸渡間	地日何地	地盤	貸渡明
自明治十九年二月 至全二十三年十二月		何何何何何何	明治十九年二月一日
四年十一月間年		何何何何何何	
額		何何何何何何	
金額		何何何何何何	
何圓何拾錢		何何何何何何	

官第何千何百何拾何號

乙第百八號  
乙第百九號  
明治十五年七月

相達候事  
〔無籍在監人入籍ノ件〕

乙第百拾號 一六 日 月 郡區町村 零

乙第百拾壹號 二六 日 月 郡區 零

乙第百拾貳號 二六 日 月 郡區町村

虎列拉病豫防ノ方法ハ明治十三年九月内務省乙第三十六號達ニ詳ナリト雖モ尙ホ昨年虎列刺病流行ノ經驗ニ徴シ今般其筋ニ於テ別刷編製相成候ニ付三十六號達ト參互シ其機變ニ應シ處措スヘシ此旨相達候事  
虎列刺病豫防消毒心得書

傳染病ヲ撲滅若クハ豫防スルニハ頗ル機會時期ヲ失ハサルヲ必要トシ其機會時期ナルモノハ發生ノ當初ニ在ルハ方今一般ノ定論ナリ先年來我邦ニ於ケル虎列刺病ノ流行猖獗ヲ極メタル事實ニ就テ觀

十九年

察スルモ其初發即チ僅々二三ノ患者ニ過キサルノ時ニ於テ活潑ノ手段ヲ以テ迅速之カ撲滅ニ着手シ且其消毒法ノ綿密周到セルモノハ常ニ其結果ヲ呈シ流行猖獗ニ至ラズ又未タ該病發生ヲ見サル所ニ在テハ清潔其他ノ豫防法ヲ施行シ遂ニ其傳染ヲ免レシハ其類例乏シカラストス然レトモ其初發ニ於テ消毒ヲ忽諸シ豫防ヲ等閑ニシ即チ機會ヲ誤リ時期ヲ失ズルトキハ忽チ毒焰四方ニ散蔓シ其勢猛烈容易ニ挫折セサルニ至ル昨年八月該病始メテ長崎ニ輸入セルヤ病勢頗ル猛劇ナルニモ拘ハラヌ幸ニ其慘毒ヲ逞フセシハ長崎一縣ニ止リ終ニ撲滅ニ飯セリ然ルニ本年ニ至リ餘孽再ヒ萌動シ其病勢ノ猛

劇ナル恰モ前年ニ讓ラサルノ兆ヲ呈セリ時候日ニ  
 温暑ニ向フニ際シ其宿留スル毒苗ハ何ノ地ニ發芽  
 セシモ測リ知ル可ラス若シ一二特發患者ヲ見ルニ  
 當リ假令有病地ヲ距ツル數百里ノ地方ナルモ厚ク  
 之レカ注意ヲ加ヘ嚴重防遏ノ處置ナカル可ラス  
 昨年來經驗セル豫防消毒法ノ要領ヲ列記シ其方  
 法順序ヲ示ス

第一章 撲滅法

第一條

虎列刺病者發シタルトキ其消毒撲滅法ヲ實施ス  
 ルハ府縣廳アルソ市街ニ於テハ巡查等主トシテ擔當ス  
 ルモノナレトモ之ヲ監督スルハ必ズ經驗ニ富ミタル警  
 部若シハ衛生課員ニ於テ擔任シ又郡廳アルノ地ナレハ

警部若シハ郡書記之ヲ監督セサル可カラス其實務者ノ  
 ミニ放任シテ其監督ヲ怠ル時ハ爲ス所ノ方法其肯綮  
 中ラズ力ヲ勞スル多クシテ効ヲ奏スル少ク財ヲ費ス  
 夥クシテ續テ收ムルヲ寡ナシ況ヤ豫防消毒ノ不充分ナ  
 ルトキハ其害一所ニ止マラス忽チ病毒ヲ四方ニ散亂シ  
 其危害ノ及フ所浩大ナルニ於テオヤ  
 發病者アルトキハ直ニ成規ノ豫防消毒法ヲ實施シ置キ傍  
 ラ其患者ハ傳染性ナルヤ特發性ナルヤヲ明ムル爲メ左  
 ノ事項ヲ問フ可キ要ス  
 一 發生ノ時日  
 二 發病前當人及家内ノ者他ノ該病アル所ヘ行キシコト  
 アリヤ

三該病アル所ヨリ物品ノ來リシモノナキヤ  
四近頃該病アル地ヨリ客來若クハ職人婢僕人傭入ヲ爲  
セシコトナキヤ

五曾テ其家ニ該病アリシコトナキヤ

六曾テ近隣ニ該病アリシヤ又ハ現在該病アリヤ

以上ヲ質問シ該病ニ傳染シタルヤ否ヲ判明スヘシ但シ  
若シ傳染ノ系統正シク知レサルモ決シテ豫防消毒ニ意  
ル可ラズ當時傳染ノ證據詳ナラサルモ後日ニ至リテ之

ヲ發見スルコトアリ又終ニ傳染ノ迹詳ナラサルモ之ヨリ  
他ニ傳染スルコトアルハ往々見ル所ナレハナリ

第二條 傳染性ナルコト判然ナルカ若クハ傳染性ナルコト疑  
アル時ニ於テハ特ニ活潑ノ處置ヲ施シ嚴ニ他トノ交通

ヲ絶テ患者ハ直ニ隔離シ充分ノ消毒法ヲ行ヒ一家限り  
ニ之ヲ撲滅スルヲ要ス此場合ニ於テハ醫員ヲシテ近隣  
ヲ巡診セシメ飲食ヲ戒慎シ攝生法ヲ諭示スル等諸般ノ  
注意ヲ爲シ又下利患者アレハ速ニ其手當ヲ施スヘシ

第三條 前條ヨリ追々各所ニ傳播ノ兆アルトキハ第二條  
ノ方法ヲ充分施行スルハ勿論且一局部限リ遮斷シ得ヘ  
キ場所ハ之カ遮斷ノ手續ヲ爲シ又檢疫委員ヲ設ケテ必  
要ノ場所ニ派出シ豫防上ニ於テ各所互ニ脈絡ヲ通セシ  
メ傳播ノ媒介ヲ爲スヘキ貧民ニハ嚴ニ取締ヲ爲シテ病  
毒ノ散蔓ヲ防キ一般下利患者ニ注意シ消毒ハ必ス委員  
ニ於テ監督シ消毒後ノ糞池ニ蛆虫生存スルカ如キ粗漏  
ナカラシメ未タ病毒ノ旺盛ナラサルニ先チ迅速撲滅ス



ルチカムヘシ

三百九十

此場合ニ於テハ祭禮等人民群集飲食スル事項ニ注意シ又醫師ヲシテ吐瀉ノ患者ヲ届出サシムルヲ要ス

第四條 隣府縣及交通アル府縣ニ虎列刺病アリテ自府縣ニ患者及死者ヲ輸入シタルトキ又ハ歸府縣後發病シタルトキニ於テハ第二條第三條ノ方法ニ依リ充分撲滅ヲ力ムヘシ

第五條 隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行スルノ通知ニ接スル時ハ直ニ其船舶ノ交通アル要港ヘ主務吏員ヲ派出シ傳染病豫防規則第拾三條ニ據リ充分注意セシメ若シ患者アルヲ探知シタルトキハ第二條第三條ニ依リ速ニ處置スヘシ又下宿旅人宿、殊ニ木賃宿、安泊等ニハ日々

主務吏員ヲ派遣シ行旅人ノ該病毒ヲ齎シ來ルモノナキヤ否ニ注意セシメ又檢疫ニ便ナル爲ニ該病流行地ヨリ來リ宿スルモノアルトキハ之ヲ届出サシムルヲ要ス

第六條 自府縣ニ於テ該病流行ノ時ハ速ニ隣府縣及船舶ノ交通アル府縣ニ電報ヲ豫防ニ便利ヲ與フヘシ

第七條 學校、旅宿、下宿屋、製造所、人足部屋、貧院、囚獄等ノ如キ多人數群居スル家ニ該病發生シタルトキハ先ツ同室者ノ外出散亂ヲ禁シ直ニ患者ヲ隔離シ其家ニ消毒シ充分施行シ其同室者ハ一々入浴セシメ同室者ノ衣類夜具ノ汚染シタルモノハ相當ノ消毒ヲ爲シ衣類夜具等ノ汚染セサルモノモ悉ク日光ニ暴露シ殊ニ飲食物ニ注意シ且患者ヲ隔離シタル日ヨリ起算シテ五日間同所ニ滯

十九年

三百九十一

留セシメ他ト交通ヲ絶テ其中ヨリ患者ヲ生セサルヤ否  
 ヲ試ムヘシ若シ其場所狹隘ナルカ又ハ都合ニ依リテハ  
 他ノ一家ヲ以テ之ニ充テ其家ニ分居セシムルカ若クハ  
 悉ク其家ニ移シ居ラシムルモ妨ナシ  
 又同縣内ニ該病流行スルモ未ダ前項ノ如キ群居ノ場所  
 ニ侵入セサルトキハ其健康ヲ保ツヘキ攝生法ヲ諭示ス  
 ルハ勿論飲食物ニ注意セシメ醫員ヲ派出シテ該病ノ有  
 無ヲ糺シ若シ該病ノ疑アルモノアルトキハ速ニ之カ豫  
 防ノ處置ヲナスヘシ

第八條 日本形諸船舶 漁船 帆船 係ル處 漁舟及汽車中  
 ニ該病者アリタルトキハ其吐瀉物ヲ何ノ所ニ棄タルカ  
 ナ糺シ若シ河中ニ投棄シタル時ニハ其處置ヲ爲シ患者

ハ可成陸上ニ隔離シ其同船者ハ消毒ノ上時宜ニ由リテ  
 ハ該船中ニテ交通ヲ絶タシメ又自宅ニ歸リタル者ハ該  
 家ニ於テ交通ヲ絶タシメ病毒ノ有無ニ注意スヘシ  
 漁車中ニ該病者アリタルトキハ患者ハ直ニ隔離シ一時  
 同車シタル者ヲ止メ置キ相當ノ消毒ヲ爲シ宿所氏名並  
 其行先ヲ記載シ置クヘシ

河川ニ沿フタル市街ニ於テ該病流行スルトキ又ハ其市  
 街ニハ該病流行セサルモ該病者死者アル船舶入津スル  
 トキハ總テ船舶ヲ下流ニ碇泊セシムルヲ要ス

第九條 排泄物ヲ河中芥溜等ニ投棄シタルヲ認知シタ  
 ルトキハ河中ナレバ其下流ニ於テ五日以上其河水ヲ飲  
 料洗濯用トスルヲ止メ芥溜等ナレハ其塵芥ヲ燒棄若ク

ハ消毒ノ上一定ノ場所ニ埋却スヘシ  
 第十條 物雪隠、大糞池等ノ糞便ノ量多キ所ニ虎列刺病者  
 上リタル件ハ粗製硫酸ヲ注キテ攪亂シ之ヲ汲取リ尙其  
 跡及ヒ近傍ニハ強石炭酸水ヲ注キテ之ヲ洗ヒ其洗水ハ  
 之ヲ汲取リテ海邊ナレハ退潮時ニ臨ミ陸地ニ距ル一里  
 餘ノ沖合ニニ投棄シ海ニ遠キ土地ナレハ一定ノ場所ニ  
 埋却スヘシ一一般ノ消毒ハ消毒物雪隠等ニ病者上圍スレ  
 ハ消毒スルニ困難ナルカ故ニ虎列刺流行ノ場合ニ於テ  
 ハ可成物雪隠ニ上ラサル様各家相當ノ方法ヲ設ケシム  
 ルヲ要ス

第十一條 患者アリタル家屋ハ消毒後疊ヲ上ケ所々ヲ開  
 放シ充分日光空氣ヲ射通セシメ其後一般ニ拭淨スルヲ

要ス且患者アリシ家ト日々直接交通アル近傍ノ下水ニ  
 至ル迄消毒法ヲ施シ芥溜ヲ取除クヲ要ス

第二章 檢疫委員

第十二條 檢疫委員ハ第三條傳染性ノ該病傳播ノ兆アル  
 場合ハ勿論第五條隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行シ  
 傳播ノ恐アル場合ニ於テ之ヲ設クヘシ

第十三條 檢疫委員ヲ設置シタルトキ之ヲシテ取扱ハシ  
 ムヘキ重ナル事項

- 第一項 第三條ノ場合ニ於テハ
- 一 病原ヲ探知シ傳染性ナルヤ否ヲ判別スルヲ
- 一 傳染性ナルヲ判然タルトキハ第三條第四條ニ依リ充  
 分ノ處置ヲ爲スヲ

- 一 消毒藥欠乏セサル様其供給ニ注意スルヲ
- 一 消毒藥ノ種類、分量、配合ニ注意スルヲ
- 一 消毒法ヲ實地ニ就キ監督スルヲ
- 一 必要ノ場合ニ於テ每患家ニ就キテ交通遮斷ノ取締ハ勿論一局部限リ遮斷シ得ヘキヤ否ノ鑑別及其實施ニ就キ取締リ監督スルヲ
- 一 遮斷地救助ヲ監督スルヲ
- 一 醫員巡診法ヲ經畫スルヲ
- 一 患者ヲ隔離シ又ハ同室者ヲ患者ヨリ隔離スルヲ
- 一 攝生法、飲料水、飲食物及清潔法ノ豫防上要用ナル件ヲ諭示スルヲ
- 一 特ニ學校、旅宿、下宿屋、製造所、人足部屋、貧院、囚獄等ニ注

意シ此等ノ場所ニ患者アレハ迅速撲滅法ヲ施行スル

第二項 第五條ノ場合ニ於テハ

一 隣府縣及交通アル府縣ニ該病流行シ其病毒輸傳シ來ルソ恐アルトキ之カ豫防ヲ爲スヲ

一 消毒藥及材料ヲ準備スルヲ

一 攝生法、飲料水、飲食物及清潔法ノ豫防上要用ナル件ヲ

諭示スルヲ

一 病毒ヲ齎シ來ルモノアレハ第二項ヲ併セ行フヲ

第十四條 檢疫委員及ヒ其他豫防ニ從事スル掛吏員ハ可

成消毒衣ヲ作り常ニ之ヲ着用シテ患者ニ接シタル毎ニ

之ヲ脱シ充分消毒法ヲ行フヘシ

第三章 避病院

第十五條 避病院ハ病者ヲ治療スルト病者他ニ散亂セ  
ルカ爲ニ設クモナリ然ルニ動モスルハ避病院ヲ嫌  
忌スルノ感ヲ惹クモノ間々之アルカ故ニ病者取扱方ニ  
ハ殊ニ親切ナラシメテ要ス其看護者ニ於テハ最モ懇篤ヲ盡  
サシムル可ラズ而シテ患者ニ面會ヲ申出ルモノアレハ町  
噂ニ取扱ヒ消毒ノ上歸ラシムルニ  
人口稠密ノ市街ニ於テハ何時ニテモ開院シ得キ避病  
院ヲ準備シ置クニ要ス而シテ第二條第三條ノ場合即チ  
傳染性ノ該病發生スルニ際シテハ直ニ之ヲ開院スヘシ  
且村落ニ於テモ第二條第三條ノ如キ場合ニハ新ニ避病

院ヲ設ケ又ハ相當ノ家屋ヲ避病院トシ患者ヲ隔離スヘ  
シ其距離ハ道路ノ便ヲ計リ餘リ村落ニ遠サカラサルヲ  
可トス

第十六條 第二條第三條傳染性ノ患者ハ殊ニ避病院ニ送  
ルヲ可トス且此種ノ患者ナラサルモ近隣貧民多キカ又  
ハ其家ハ廣キモ多人數群居スルカ又ハ狭クシテ自宅治  
療ヲ許スハ危険ナリト認ムルトキハ可成入院セシムル  
ヲ要ス

第十七條 人口稠密ナル市内ノ避病院掛員ハ當直醫調藥  
生世話掛各一員以上ヲ置キ且看護者小使排泄物取扱人  
ヲ分科シテ置カサルヘカラス又賄人ハ一切病室ニ立入  
ラシムヘカラス村落ニ於テハ之ニ準シ簡易ニスルモ妨

十九年

第四章 遮斷法實施

第十八條 虎列刺病毒ハ患者僅少ナル時期ニ於テ撲滅セ  
 ス一旦散蔓セシムルトキハ之ヲ遏ムルノ頗ル難シ故ニ  
 其目的トスル所ハ之ヲ一人ニ於テ撲滅シ若シ一人ニ於  
 テ撲滅シ能ハサル時ハ一家ニ於テ撲滅シ一家尙能ハサ  
 ル時ハ一村一部落ニテ撲滅ス可シ其撲滅ヲ謀ルニハ第  
 一交通ヲ禁シ病毒ヲ一所ニ遮斷シテ其場所ヨリ之ヲ他  
 へ流傳セシメサルヲ要ス  
 交通遮斷ハ第二條傳染性ノ該病發生シタルノ場合ニ於  
 テ一家ヲ遮斷シ第三條傳染性ノ該病追々他ニ傳播シタ  
 ルノ場合ニ於テ必要ノ一局部ヲ遮斷ス

第十九條

市街ニ於テ遮斷ヲ實施シタルトキハ巡查等ヲ  
 以テ充分交通ノ取締ヲ爲シ日用品ノ類ハ相當ノ取扱人  
 ヲ設ケテ其用ヲ便セシメ其内部ニ在ッテハ時々入浴ヲ  
 促メ身体ヲ清潔ナラシメ衣類、夜具、室内ハ常ニ日光空氣  
 ニ曝サシメ日々醫員ヲシテ患者ノ有無ニ注意セシムヘ  
 シ村落ニ在テハ右ニ準シ適宜ノ取締法ヲ設ルヲ要ス

第二十條

終リニ患者ヲ出シタル日ヨリ起算シ少クモ五  
 日以上ヲ經過シテ異常ナキトキハ遮斷ヲ解クヘシ但尙  
 疑シキ場合ニ於テハ更ニ持久スルヲアルヘシ

第五章

消毒藥ノ種類并用法

第二十一條 消毒法ハ消毒藥ノ種類、分量、配伍等其當ヲ得サ  
 ルトキハ有力ノ消毒モ其効ヲ見サルノミナラス消毒濟ノ

安心ヨリシテ後ノ注意ヲ缺キ却テ蕃殖ヲ逞フセシムル  
ノ憂ナシトモス故ニ主務吏員ニ於テハ其藥力ノ病毒ヲ  
殲滅シ得ズキ適當ノ種類分量ニ從ヒ決シテ石炭酸ノ臭  
氣硫酸ノ沸騰等其現像ヲ皮相シテ消毒ノ濟否ヲ斷定ス  
ルノ不注意ヲキチ要ス

患者、死者、看護人及同室シタルモノニ一般消毒ノ注意及  
消毒法ノ種類

- 一 患者ノ衣類、夜具、蚊帳等排泄物ニ汚染シタルモノ及汚  
染ノ疑アルモノ
  - 一 看護人及同室者ノ衣類、夜具、蚊帳等排泄物ニ汚染シタ  
ルモノ及汚染ノ疑アルモノ
- 以上ノ物品ハ可成燒却シ然ラサレハ蒸氣ニテ一時間之

ヲ蒸騰スルカ又ハ煮沸スルカ又ハ熱湯ニ浸シ一時間以  
上密蓋スルカ若クハ二十四時間強石炭酸水ニ浸スヘシ

- 一 患者ノ同室ニアリタル衣類、夜具及同室者看護者ノ衣  
類、夜具等ノ排泄物ニ汚染セサルモノハ日光ニ曝露シ  
且看護者、同室者ハ入浴シテ其身体ヲ清潔ナラシムヘシ

第廿二條 排泄物ノ受器及消毒

- 一 排泄物ノ受器ハ磁器ヲ第一トシテブリキ箱ニ而シテ其  
内ニ木炭又ハ灰ヲ入レ置キ吸收セシムルヲ可トス
- 一 其消毒ハ強石炭酸水石炭酸五分強鹽化石灰水鹽化石灰  
分ヲ充分灌注シ然ル後燒却スヘシ
- 一 床上ニ吐瀉シタルモノハ之ヲ拭取リ而シテ其跡ハ強

石炭酸水又ハ強鹽化石灰水ヲ充分注キ若シハ拭淨シ  
 又ハ差支ナキモノハ可成燒却スヘシ其土間ニ於テス  
 ルモノハ吐瀉物ノ浸入セル部分ヲ掘取リ之ヲ燒却若  
 シハ埋却シ其跡ニハ前同様ノ消毒藥ヲ灌クヘシ  
 一昇汞水二十分ニ格魯兒水銀一分ヲ水ハ排泄物ノ全量ニ凡  
 ソ其四分ノ一ヲ灌キ棒ニテ能攪和スレハ病毒ヲ撲滅  
 スルノ偉効アレヒ猛毒ニシテ且無色無臭ノモノナル  
 ナリテ使用者ノ如何ニ由リ大害ヲ醸スニアリ此故ニ  
 使用者其人ヲ得テ排泄物ノ消毒ニ用ユレハ殊ニ其効  
 アリトス但飲料水ニ滲透スヘキ場所ニハ決シテ撒布  
 スヘカラス

第廿三條 家屋消毒ノ注意及消毒法

一疊戸棚等一室内ニアルモノ  
 一患者ノ入りタル厨房及病床ヨリ厠間へ通行ノ路  
 一同室ノ床板周圍柱及建具ノ類ハ  
 以上ノ消毒ハ六時間以上亞硫酸（參防心得ヲ）ニテ薰蒸シ  
 又ハ弱石炭酸水（石炭酸二分若シハ弱鹽化石灰水一分水百  
分ニテ拭淨シ又ハ之ヲ能ク撒布シ日光大氣ニ曝露スヘ  
シ但疊ハ排泄物ノ染ミ易キモノニシテ常ニ手ヲ觸レ或  
ハ食物等ヲ落シル行モアレハ可成燒却スルヲ可トス  
 第廿四條 患者ト同室内ニアリタル諸器具及患者日用品  
 ノ消毒注意及消毒法  
 一 同室内ニアリタル諸器具  
 一 患者ノ日々用ニシタル飲食器及其他ノ器具



以上ノ消毒ハ熱湯ニ堪ニキモノハ熱湯ニテ消毒シ貫  
 重ノ品ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨シ大氣ニ曝露スル等相當  
 ノ消毒ヲ爲スルニ燒却シ得ヘキ品ハ可成燒却スルヲ可  
 第廿五條 該病毒ハ便所、下水、芥溜等不潔ノ場所ニ於テハ  
 其發育殊ニ速カナルモノナレハ是等ノ所ヲ病毒ヲ集積  
 見做シ左ニ掲クテ個所ハ層精密ニ消毒シテ更ニ遺  
 漏ナキヲ要スルニ注意スルニ當リ  
 糞池及モ糞池ノ周邊ニ排泄物ヲ流シタル  
 下水殊ニ不潔壅塞シタル下水又ハ排泄物ヲ流シタル  
 疑アル下水ハ其ノ不潔ノ芥溜又ハ排泄物ヲ捨テタ  
 一芥溜殊ニ臭氣甚シキ不潔ノ芥溜又ハ排泄物ヲ捨テタ

ル疑アル芥溜

一不潔ノ土間及縁先殊ニ吐瀉シタル疑アル土間  
 以上ノ消毒ハ粗製硫酸同量ノ水ニ和シ大量ニ入ル  
 意スルニ注強石炭酸水、強鹽化石灰水ヲ灌注シテ攪亂シ若  
 シハ撒布シ或ハ燒却若クハ埋却スルニシ

第廿六條

排泄物運搬器並ニ其人夫ノ消毒、注意及消毒法

- 一 排泄物運搬ノ車若クハ箱或ハ之ニ附屬スルモノ
  - 一 一人夫ノ衣類、草鞋ノ類
  - 一 一人夫ノ身体
- 以上ノ消毒ハ排泄物運搬器及其附屬物ニハ強石炭酸水  
 強鹽化石灰水ヲ灑注洗淨シ人夫ノ衣類ハ之ヲ貸與シ其  
 衣類ハ熱湯若クハ弱石炭酸水ニ浸シ人夫ハ其身体ヲ弱

石炭酸水ニテ拭淨シテ衣ヲ換ヘシムルヲ可トス且燒却

得ヘキ草鞋ノ類ハ燒却セシムヘシ

前數章ノ外特ニ開港場ノ主務者ニ必要ノ個條

第一條 常ニ外國新聞若クハ外國ヨリ入港ノ船舶ニ依リ

テ直接交通アル外國港ニ該病流行ノ有無ヲ偵知スルヲ

要ス而シテ該病流行ヲ偵知シ得タルトキハ直ニ內務省

ニ申報シ入港ノ船舶ニ注意シ内地ニ病毒ヲ輸入セサル

ニ盡力スヘシ且何時モ檢疫ヲ執行シ得ヘキ準備ヲ

爲シ置クヘシ

第二條 未ダ海港檢疫ノ告示ナキニ先テ自縣ニ入港シタ

ル外國船舶ヲ知リ規則ニ據リ之ヲ處置スニ該病アルト明

カナルトキ若クハ該病アル疑アルノ場合ニ於テハ船長

若クハ領事ト協議シ其承諾ヲ經テ相當ノ手續ヲ爲スヘ

シ尤外務內務兩省ニ電報スヘシ且一般ノ豫防ニ付テハ

其船舶ニ交通スル者ニ注意シ之カ取締ヲ爲シ又上陸

スル者ニ注意シテ其交通セル人家ヲ取調置キ患者ノ有無

ヲ偵知スヘシ

第三條 該病アルコト證明ナル船舶若クハ該病アルノ疑ア

ル船舶他縣ニ向ケ進航セルトキハ其進航先キヲ取調其

縣ニ事情ヲ悉シテ電報シ以テ豫防ノ便ヲ與フヘシ

乙第百拾三號 六月 郡區

其役所爲換方預ケ金抵當公債証書價格ノ義十七年當廳乙

第二百七拾八號ヲ以相達置候處左記之分價格改正候條此

旨相達候事

金祿公債七步利付額面百圓ニ付九拾圓

全 六步利付全上ニ付

八拾五圓

全 五步利付全上ニ付

七拾七圓

新公債全上ニ付

七拾貳圓

起業公債全上ニ付

八拾五圓

中山道鐵道公債全上ニ付

九拾五圓

乙第百拾四號 六月 郡區町村

徵兵常備現役中傷痍疾病ニ罹リ一時服務ニ堪ヘサルモ尙  
\* 後來全癒服務ニ堪ユルノ見込アル者ハ生兵卒業後ナシ  
ハ 郷里ニ歸休セシメ又卒業以前ナシハ第一豫備徵員ニ編  
入可相成旨其筋ヨリ達有之候條此旨相達候事豫  
但到底服務ニ堪ヘサル者ハ除役トス

乙第百拾五號 六月 郡區町村

客年當廳乙第百五號達第十條左之通改正候條此旨相達候  
事  
第廿條 地租改正ノ際調製セシ地圖ニ異動ヲ來セシ廉  
價ハ其廉シニ更ニ別圖ヲ製シ置該地ノ沿革明カナル様致  
スヘシ

乙第百拾六號 六月 郡區 零

乙第百拾七號 六月 郡區町村

明治十七年當廳乙第四十六號達備荒儲蓄施行規則附則取  
扱手續第壹章第三條三項ヲ左ノ通改正候條此旨相達候事  
第三項 公債証書ノ價格ハ明治十七年當廳乙第二百七  
十八號及本年乙第百廿三號達ニ據リ地所ハ概テ當時  
十九年

ノ米價三地券代價半額以内以テ抵當價格トス

乙第百拾八號 十七日 郡區町村

棄兒ヲ一時申出方自今左ノ書式ニ準スヘシ此旨相達候事

書式

棄兒ノ義付上申

棄兒 某

明治何年月日生

右ハ明治何年月日何郡區町村何番戸軒下ニ(或ハ何々)捨有之候時付前書之通命名并出生年月日相定何郡區町村何番戸何某へ相預ケ養育爲致置候間養育米御下ケ渡相成度此段上申仕候也(預リ人於テ私費養育或ハ養子女ニ貰受尙) 養育米ヲ仰等ノ事故取調本文加除スヘシ 何郡區町村戸長 何 某 印

(預リ人等他町村ノモノナリハ双方戸長ノ連署ヲ要ス)

知事宛

乙第百拾九號 六月十七日 郡區

諸貸付金徵收方取扱ノ義左ノ通相定候條此旨相達候事

諸貸付金徵收方取扱規程

第一條 諸貸金ハ左ニ掲ル科目ニ據リ本廳會計主務官ヨリ納額告示書ヲ發付セシムルモノトス

- 一 舊藩貸
- 二 勸業貸
- 三 繰替貸
- 四 雜種貸

第二條 諸貸付金納期二十日以前ニ納額人名等郡區役所

十九年

コ於テ取調仕譯書ヲ以テ會計課へ告知書請求スルモノトス

第三條 前條ノ請求ニ依リ納額告知書ハ會計課ヨリ所轄郡區役所へ送付ス郡區役所ニ於テハ告知書ノ裏面ニ年月日ヲ記入シ捺印ノ上納人へ配付シ其徵收ヲナスモノトス

第四條 前條納金濟ニ對シ國庫金取扱所ヨリ上納副書ヲ領收シタルハ仕譯書ヲ付シ其時々會計課へ報告スル

第五條 郡區役所ニ於テハ納額告知書ニ記載アル納期内ニ納金セサルモノアルハ之ヲ督促シ結局納金スル不能事情アルモノハ其事由ヲ詳記シタル返納猶豫或ハ延

年賦願等ノ書面ヲ徵シ詳細具申スルモノトス

第六條 左ニ掲ル諸件ハ其時々具申スルモノトス

- 一 負債主他管下へ移轉シタルモノ
- 二 負債主身代限り處分ヲ受クルモノ
- 三 負債主死亡若シクハ退隱等ニテ相續人へ負債ノ義務ヲ引受タルトキ

乙 第百貳拾號 六月廿四日 郡區

煙草菓子ニ屬スル諸鑑札及自察用科酒免許鑑札之義廢業代換轉居ニテ返納等ノ分後來使用難相成モノハ自今返戻ニ不及候條其役所ニ於テ不取締無之様燒却方取計毎年六月三十日限別紙離形ニ做ヒ收稅課へ報告スヘシ此旨相達候事

諸鑑札返納ノ分燒却報告

四百十六

鑑札名番號	町村	氏名
合		
三		
計		
何枚		何人

右何年何月日燒却方取計候ニ付此段及報告候也

年 月 日 何郡區長 名 印

京都府收稅長宛

乙第百貳拾壹號 廿四日 郡區町村

今般陸軍看馬卒現在員被廢候ニ付現役中ノモノ及補充員第一豫備徵員共總テ輜重輸卒ニ組置昨十八年現役ニ徵集ノ者ハ直ニ豫備役ニ編入シ本年四月二十日ヨリ起算シ滿六ヶ年間該役ニ服セシムヘキ旨其節ヨリ達相成候條此旨相達候事

乙第百貳拾貳號 廿四日 郡區町村

陸軍看馬長并看馬卒現在員被廢候旨其節ヨリ達相成候條此旨相達候事

乙第百廿三號 廿八日 郡區町村

町村内或ル部落ニ屬スル共有物其部落ニ於テ取扱方法ヲ定メ協議ノ上戸長ニ管理申出候向有之候ハ、一般共有物取扱ニ準テ處理不苦候條此旨相達候事

十九年

四百十七

乙第百貳拾四號 三十日 郡區 零

乙第百貳拾五號 一七日 郡區 町村

本年本府乙第七拾五號徵稅帳簿式中日計簿之雛形以通登記可致管之處自然納期等之際シ納稅者差添ヒ實際帳記上差支ルハ郡町村ヲ掲ケス人員金員トモ合計ヲ以記載シ置シモ若シカラズ此旨相達候事

乙第百貳拾六號 三日 郡區

客年五月當廳乙第八拾五號達印紙類賣下賣捌規則取扱手續本月一日ヨリ別紙ノ通改正候條此旨相達候事  
第一項 印紙類賣下賣捌規則取扱手續  
第二項 印紙類ノ受拂ハ主任官二名以上ノ立會ヲ要スル

モノトス

第三項 印紙類賣捌許可ノ上ハ其種類住所并族籍氏名等三日以内收稅長ニ報告スルノ廢業ナル時モ亦同

但本項ノ内非恩典者ニ係ルモノハ其免許期限ヲ掲記ス

第四項 印紙類ノ需用者及現在高ノ景況ヲ參酌シ毎三箇月分郡區長名印ヲ以テ第壹號雛形ニ倣ヒ之ヲ收稅長ニ請求ス

第五項 印紙類到達ノ節ハ日數三日以内第貳號雛形ニ倣ヒ領收證書ヲ收稅長ニ送致ス

第六項 印紙類賣捌ノ標札ハ第三號雛形ニ依リ調製下付ス

但二種以上賣捌シモノハ各種類ヲ壹枚ニ併記スルモ

第七項 印紙類賣捌人員増減ハ壹箇年ヲ二期ニ分テ第四  
號離形ニ做ヒ六月末日ノ現在員ヲ七月十日限リ收稅  
長ニ報告スヘシ

第八項 他管下ヨリ轉籍又ハ寄留シタル者若シハ他郡區  
ヨリ轉住シ印紙類賣捌ヲ請願スル時ハ規則第七條第  
二項ノ年限中ニ係ラサル者ナルヤ否及第二十一條ニ據  
リ禁止セラレタルコトナキヤ否等ヲ詳查スヘシ

第九項 印紙類賣下賣捌規則第十條但書ニ據リ印紙代金  
ノ延納ヲ許可シタル時ハ其抵當ト爲スヘキ公債証書及  
第五號離形ニ做ヒ上納受書ヲ徴スヘシ

但公債証書價格ハ明治十三年大藏省乙第壹號達ニ據  
リ之ヲ定ムヘシ

第十項 前項ノ延納ヲ許可シタル時ハ人名金額上納期月  
等ノ摘要ヲ收稅長ニ報告スヘシ

第十一項 規則第十條但書ニ據リ延納ノ代金其收入方翌  
年度ニ亘ルモノハ現收入年度ノ稅表ニ編入スヘシ

第十二項 印紙類到着ノ節ハ直ニ檢査ヲ遂ケ若シ損傷汚  
染或ハ護謨糊粘等ニテ全ク使用シ得ヘカラサルモノア  
リタルトハ其運搬ヲ爲シタル運送會社々員等ノ手續書  
ヲ徵シ種類枚數等ヲ記載シタル調書ヲ添付シ處分方稟  
議スヘシ

但天災地變等ニ罹リタルモノハ本項手續書ニ社員外



貳名以上ノ証明ヲナサシムヘシ

第十三項 印紙類萬一封中ノ員數ニ過不足ヲ生シタルモ  
ハアル時ハ其封紙帶紙ニ立會吏員ノ姓名書ヲ添付シ處  
分方ヲ稟議スヘシ

第十四項 印紙類ノ受拂ヲ爲シタル時ハ主任ニ於テ即日  
受拂及ヒ殘高ヲ記帳シ現在高ト對照スヘシ  
第十五項 主任官交代スル時ハ帳簿ト現在高ト對照シ受  
渡ヲナスヘシ

第十六項 印紙類賣下賣捌規則第十七條ニ依リ返納セシ  
印紙(代金延納ニ係ルモノヲ除ク)ハ其種類(長角形等)區  
分シ枚數及代金等明細仕譯書ヲ添付シ其時々代金還付  
方ヲ稟議スヘシ

但代金納付ト印紙返納ト其時日年度ヲ異ニスル時ハ  
代金納入年度ノ區分ヲ立テ之ヲ稟申スヘシ  
第十七項 損傷又ハ汚染印紙ノ交換ヲ差許シタル時ハ規  
則第十六條ニ據リ郡區役所現在印紙ヲ以テ交換シ其交  
換シタル印紙ハ受拂計算表ノ部損傷毀損欄内ヘ掲記シ  
該印紙ハ每半年分取纏メ收稅長ニ送致スヘシ  
(第壹號雛形)

前年度賣下高何程 平均一ヶ月

但前年度平均ヲ得ルコト能ハサルモノハ前六ヶ月

何印紙 何枚  
(印紙ノ異ナル毎前ニ同シ)

右者何年何月ヨリ何月迄三箇月分及請求候也  
 年 月 日  
 何郡區長 名 印  
 京都府收稅長宛

(第貳號雛形)

何年月日差立一何年月日到着

諸印紙類領收証	何年月日到着
一 烟草何々用帶何	領收証
一 全 角何	印紙
一 証 券 何	印紙
一 訴 訟 用 何	印紙
一 賣 藥 長 角 何	印紙
一 約束手形何	印紙
	何 何 何 何 何 何
	枚 枚 枚 枚 枚 枚

書用紙

一 爲換手形何 用紙 何 枚  
 右領收候也  
 年 月 日 何 郡 區 名 印  
 京都府收稅長宛

(第三號雛形) 郡區役所々轄限リ

通シ番号 曲尺長貳尺九寸

表

第何號 第何號 第何號	第何號 第何號 第何號
□ 何々印紙賣捌所	何府何國何郡何町何番地
	何
	某

(第四號雛形)

明治何年何月印紙賣捌人員表	前期 = 比較増減
規則第五全第六條ノ受恩者	規則第五全第六條ノ受恩者
計	計
非恩典者	非恩典者
合計	合計

十九年


右之通候也

年 月 日

京都府收稅長宛

何郡區名印

(第五號雛形)

延納代金上納受書

消印

印紙

印紙賣下代金上納御受書

一印紙代金何圓

内譯(印紙種類及枚數ヲ掲記スヘシ)

右印紙代金ノ儀ハ來ル何月何日無相違上納可仕依テ  
 右代金ニ對シ別紙公債証書ヲ抵當トシテ差出候若シ  
 上納期日ニ不納候時ハ該公債証書御賣拂ノ上印紙代  
 金御徵收相成聊異議無之且印紙類ノ保護ハ勿論萬一  
 水火盜難等有之候トモ右印紙代金ハ屹度上納可致候  
 此段御受申上候也

但印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ場合ニ於テハ本  
 文ノ期限ニ拘ハラス直ニ上納可仕候也

國郡區町番地印紙賣捌人

年 月 日 姓 名 印

郡 區 長 宛

十九年

他人記名ノ公債証書ヲ借受ケ抵當ト  
スルハ其記名者ノ連置ヲ要スヘシ  
戸長與印同斷

右相違無之仍テ與印候也

年月日

右戸長姓名印

乙第百貳拾七號 五月 郡區 畧

乙第百貳拾八號 七月 郡區 町村

乙第百貳拾九號 七月 郡區 畧 (本年十一月甲第拾八號ニヨリ廢)

乙第百三拾號 七月 郡區 町村

乙第百三拾一號 七月 郡區 町村

明治十四年七月乙第三拾七號達郡區長委任條件第廿五條中

附籍ノ二字ヲ刪除シ左之通更正候條此旨相達候事

第廿五條 分家并復籍願ノ事

乙第百三拾壹號 七月 郡區 町村

大坂鎮臺司令官ヨリ非常召集取扱手續別冊之通相定候旨  
照會有之候條此旨相達候事

但明治十七年本府乙第百八拾七號達ハ取消候事

非常召集取扱手續

第一條 戰時若シハ事變ニ際シ在郷諸兵雜卒職工ヲ召  
集スルハ分テ左ノ四項トス

一 充員召集

二 後備軍召集

三 近衛充員召集

四 近衛後備軍召集

第三條 充員召集ハ戰時若シハ事變ノ緩急ニ應ジテ軍

十九年

管若シクハ數軍管若シクハ全國軍管ノ豫備役艦員并ニ  
歸休兵豫備役諸兵雜卒職工ヲ召集スルモノトス

但現役輸卒ニシテ郷里ニ於テ服役スルモノモ全時ニ  
召集ス

第三條 充員召集ヲ分テ二種トス第一充員召集第二充員

召集是ナリ戰時若シクハ事變ニ際シ戰列隊ヲ戰時定員

ニ充足シ補充隊ヲ編成スルモノヲ第一充員召集ト云ヒ

戰時若シクハ事變ニ際スルモ未タ開戰ヲ期セス單ニ警

戒ニ止リ分遣駐屯等ノ爲メ戰列隊ヲ戰時定員ニ充

足シ補充隊ヲ編成セザルモノヲ第二充員召集ト云フ

第四條 凡ソ充員召集ニ當リ歩兵科豫備役艦員并ニ飯休

兵豫備兵ハ大坂姫路大津等ノ本隊所在地ニ工兵科ノ豫

備役艦員并ニ飯休兵豫備兵雜卒職工ハ伏見ニ其他ノ豫備役艦員

并ニ飯休兵豫備兵雜卒職工ハ鎮台下ニ召集スル者トス

然レモ左ノ四項ニ掲グルモノハ各聯隊所在地ニ召集ス

ルモノトス

一隊屬輜重隊ニ要スル輜重科ノ豫備役艦員并ニ豫備役

輜重兵

二全現役豫備役輜重輸卒

三各隊各部ニ要スル豫備役看護卒

四豫備役諸職工

第五條 前條四項ニ當ルモノニシテ姫路大津伏見ノ各地

ニ召集ノモノハ別紙ニ掲ク其他ノ者ハ鎮台下ニ召集ス

ルモノトス

(本條及但書ニ別紙ニ掲トアル者ハ本人ノ異動ニ據リ常ニ變換ナス者ニ付別紙人名ハ略之)

但シ本條別紙ニ掲クルモノニシテ轉籍又ハ死亡等ニ依リ欠員セシキハ其補填スヘキ人名ヲ後備軍司令官ヨリ府縣駐在官ニ達シ全官之ヲ郡區駐在官ニ達シ郡區(戶)長ヲ經テ本人ニ召集地ヲ達シ置クモノトス

第六條

後備軍召集ニ當テハ步兵科ノ后備軍驅員并ニ后備步兵ハ身元ノ師管ノ鎮台營所ニ其他ノ后備軍驅員并ニ

第七條

近衛充員召集ハ戰時若シクハ事變ノ緩急ニ應ニ數軍管若シクハ全國軍管ノ近衛豫備役驅員并ニ飯休兵豫備役諸兵雜卒職工ヲ召集スルモノトス

第八條

凡ソ近衛充員召集ニ當テハ近衛豫備役驅員并ニ飯休兵豫備役諸兵雜卒職工ハ總テ輦下ニ召集スヘキモノトス

ノナリト雖モ時宜ニ由リテハ某鎮台下若シクハ某營所々在地又ハ其他ノ集合(聚中)要スル某地ニ召集スルモノトス

第九條

近衛豫備役諸兵雜卒職工ハ輦下ニ召集スルモノト某鎮台下若シクハ某營所々在地又ハ集合(聚中)ヲ要スル某地ニ召集スルモノトス先ツ本人原籍地所管ノ鎮台下及ヒ營所々在地ニ召集スルモノトス

但シ近衛豫備役驅員并ニ飯休兵直ニ輦下若シクハ某地ノ集合(聚中)地ニ召集スルモノトス

第一充員召集

第十條

第一充員召集ノ令下ルヤ鎮台司令官ハ營所司令官後備軍司令官ハ營所后備軍司令官ハ營所司令官ヨリ衛戍司令官ニ達シ

十九年

又全時ニ憲兵本部長ヲ分遣隊ニ在府知事縣令裁判長ニ通知  
 シ管内ノ豫備役區員并ニ暇休兵豫備役諸兵雜卒職工ヲ  
 召集戰列諸隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スル  
 モノトス又現役輸卒ニシテ郷里ニ在ルモノモ全時ニ召  
 集スルモノトス  
 但シ本文ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テ左ノ通り達(通知)  
 第一充員召集御沙汰相成候條此旨達(通知)ス  
 第十一條 府知事縣令前條ヲ通知ニ從ヒ郡區長及警察  
 署長ニ電信ヲ以テ達シ電信ノ便アラサル地ハ飛信若  
 シ又脚夫ヲ以テ郡區役所又一警察署ニ脚夫宛チ  
 發シ一時間一里半ノ速度ヲ基準トシテ召集ヲ達スルモ

ノトス

第十二條 府縣廳ニ於テ前條達ノ事務ニ費ス時間ハ二時  
 間トス  
 第十三條 郡區長第十一條ノ達ニ從ヒ召集スルニ暇休  
 兵豫備役諸兵雜卒職工并ニ現役輸卒等ノ人名ヲ記シ豫  
 定ノ脚夫一戸長一腳夫宛チ發シ一時間一里半ノ速度  
 ヲ基準トシテ召集スルモノトス  
 第十四條 郡區役所ニ於テ前條達ノ事務ニ費ス時間モ亦  
 二時間トス  
 第十五條 戸長ハ第十三條ノ達ニ從ヒ暇休兵豫備役諸兵  
 雜卒職工并ニ現役輸卒ニシテ郷里ニアルモノニ召集  
 達シオナスニ豫定ノ脚夫一名若クハ數名ヲ發シ普クニ

時間内ニ達シ得ルモノトス  
 但シ戸長ヲ置カサル郡區ハ郡區役所ニ於テ本支道取  
 扱ヲナシ得ルモノトス  
 第十六條 戸長役場ニ於テ前條達ヲナス事務ニ費ス時間  
 亦三時間トス  
 第十七條 戸長ニ前條達ヲナシタル暇休兵及豫備役諸兵  
 雜卒職工ニ通行免狀ヲ渡シ旅費ヲ支給シ二十四時間内  
 三發程ニシテハ  
 第十八條 各兵召集ノ令ヲ受ケレハ通行免狀并ニ旅費ヲ  
 請取リ通行免狀ハ記載ナル召集地ニ向ケ速カニ發程  
 スルニシテ遲クモ達シ受ケル後二十四時間ヲ過ルルヲ許  
 サズ

第十九條 充員召集ニ當テ各兵鎮台又ハ營所分營ニ到ル  
 ニハ勉メテ迅速ヲ要ス遲クモ一日行程十里未滿ヲ許サ  
 ス  
 第二十條 充員召集ノ時ハ各兵召集地ニ到ルニ本支道ノ  
 内直路ニ就クモノトス  
 第二十一條 召集ニ應スヘキ暇休兵豫備役諸兵雜卒職工等  
 召集地ニ參着スレハ晝夜ニ係ラス大阪姫路ハ後備軍司  
 令部大津ハ滋賀縣駐在所伏見ハ工兵隊ニ届出ツヘシ  
 第二十二條 郡區役所ニ於テ充員召集ヲ戸長ニ達スル爲メ  
 又郡區駐在官ヨリ送附スル豫備役驅員召集令狀ヲ各自  
 ニ配達スル爲且ツ郡區駐在官ヨリ送附スル各兵通行免  
 狀ヲ戸長ニ下附スル爲豫テ所要ノ脚夫ヲ定メ置クヘシ



第廿三條 戶長役場ニ於テ充員召集ニ當リ暇休兵豫備役諸兵雜卒職工ニ召集達チナス爲メ管内ノ廣狹ニ應シ豫テ所要ノ脚夫ヲ定メ置クヘシ

第廿四條 召集ニ應スヘキ暇休兵豫備役諸兵雜卒職工疾病處刑又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キハ本人又ハ親族ヨリ事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ軍醫軍醫アラサル地ハ地方醫師ハ診斷書處刑中ノモノハ刑名宣告書寫失踪逃亡ノモノハ其事由書ニ戶長與書証印ノ上憲兵部憲兵設置ナキ地ハ最寄警察署ノ証印ヲ受ク郡區駐在官ニ届ケ出ヘシ

第廿五條 召集ニ應スヘキ暇休兵豫備役諸兵雜卒職工疾病快癒又ハ事故止ミタルハ其旨前條ノ手續ヲ以テ郡區駐在官ニ届出テ然ル上戶長役場ニ至リ通行免狀及ヒ

旅費ヲ受取召集地ニ向ケ發程ヲ參着ノ上ハ晝夜ニ係ラズ大阪姫路ハ后備軍司令部大津ハ滋賀縣駐在所伏見ハ工兵隊ニ届出ツヘシ

第廿六條 憲兵本部長分遣隊ニ在テハ該隊長府知事縣令ハ第十一條ノ通知ニ從ヒ憲兵又ハ警察官吏ヲシテ左ノ件々ヲ執行セ

但シ憲兵部ノ設ケナキ地ハ警察官吏專ラ擔當シ憲兵ノ設ケアル地ノ警察官吏ハ憲兵ノ職務ヲ補助スヘキモノトス

一郡區駐在所若クハ戶長役場ニ就キ召集スヘキ者ノ人名ヲ詳知シ各自ノ家ニ至リ遲滯ナク發程セシヤ否ヲ調査スヘシ

二河川港灣停車場等ノ要地ニ出張シテ其通行ヲ容易ナ  
ラシムヘシ

三郡區駐在官及郡區長若シクハ戶長等ノ通知ニ從ヒ失  
踪逃亡者ヲ搜索シ或ハ違令者ヲ拘留シ口供ヲ作り之  
ヲ召集地ニ引致シ若シクハ遞送スヘシ

第廿七條 第二充員召集ニ於テモ第一充員召集ノ諸條ヲ  
適用スヘキモノトス

第廿八條 後備軍召集ノ令下ルルハ充員召集取扱ニ異ナ  
ルコトナシ

第廿九條 充員召集ノ舉アルルハ官衙及ヒ公署ニ雛形ノ  
如ク警報書ヲ揭示シ公傳ノ法ヲ用ヰキモノトス  
但シ官衙トハ警察署全分署及ヒ出張所郡區役所戶長

役場等ヲ云フ

警報

揭示

形  
一第何軍管第一充員  
召集相成候事  
何月何日何時何分  
着報

用紙ハ成丈ケ幅廣キ紙ヲ用ヒ文字  
ヲ大書シ公衆ヲシテ着目スルニ便  
ナラシム

第二充員召集ノ件

一第何軍管第二充員召集相成候事

後備軍艦員召集ノ件

一第何軍管後備軍艦員召集相成候事

後備軍召集ノ件

一第何軍管後備軍召集相成候事

十九年

近衛充員召集ノ件

一近衛第一充員召集相成候事  
以下右ニ全シ

乙第百三十二號廿八月郡區町村

戸長及ヒ郡區役所戸長役場雇旅費額別表之通相定メ候條  
本年六月閣令第十四號内國旅費規則ニ準シ來ル八月一日  
ヨリ施行スヘシ此旨相達候事

別表

旅費額

等級	旅費額	
	瀛車賃	瀛船賃
一等	一哩毎ニ一海里毎ニ	一里毎ニ一里毎ニ
一等	金六錢	金八錢
一等	金六錢	金六錢
一等	金六錢	金七拾錢
一等	金六錢	金五拾錢

二等 金五錢 金五錢 金七錢 金五錢 金五拾錢 金三拾錢

乙第百三十三號廿八月郡區

本年二月當廳乙第四十三號達諸印紙類受拂計算表別紙之通  
改正本年度ヨリ施行候條右ニ準據シ毎年四月五日限收稅  
課ニ差出スヘシ此旨相達候事

何區郡明治何年度烟草印紙受拂計算表

區別	受			拂		
	越	高	受取高	延納	損傷	差引
五厘						
三厘						
四厘						
計						

十九年

十九年

五 貳錢	用 夕 拾			用 夕 拾 三			用 夕 計
	貳 厘	三 錢	四 厘	四 厘	八 厘	壹 錢	

四百四十五

拾 貳 貳 壹 厘 錢	用 夕 五 拾			用 夕 拾			用 計
	貳 厘	壹 錢	九 厘	八 厘	六 厘	四 厘	

四百四十四

十九年

角														
四厘	貳錢	貳錢	八厘	壹錢	六厘	壹錢	貳厘	壹錢	九厘	八厘	六厘	四厘	三厘	貳厘

四百四十七

用 勿 百			用 勿 拾 八				用 勿 拾						
計	八錢	六錢	四錢	計	四厘	六厘	八厘	四厘	貳厘	三厘	計	四錢	三錢

四百四十六

京都府收稅長宛

何區郡 明治何年度證券印紙受拂計算表

何區郡	區別	越 高	受 取 高	受			計
				賣 人 廢 業 其 他 返 納	賣	下	
	五 厘						
	壹 錢						
	貳 錢						
	錢 五						
	錢 拾						
	錢 貳 拾						
	錢 五 拾						
	錢 五 拾						
	五 拾 錢						
	壹 圓						
	計						

十九年

四百四十九

右之通候也

年 月 日

何 區 郡 長 名 印

合 計	種						
	計	八 錢	四 厘	六 錢	八 厘	四 錢	三 厘

四百四十八



毀損其外	計	差引殘高	損傷返納

右之通候也

年 月 日

京都府收稅長宛

何 區 郡 長 名 印

越	區 別	何 區 郡	明 治 何 年 度 訴 訟 用 印 紙 受 拂 計 算 表
高	三		
	錢		
	五		
	錢		
	拾		
	錢		
	五		
	拾		
	錢		
	壹		
	圓		
	五		
	圓		
	拾		
	五		
	圓		
	貳		
	拾		
	圓		
	計		

計	毀損其外	汚損交換	延納	拂			計	受取高	賣捌人廢業其 他返納
				高	下	賣			
				小計	百分ノ九	百分ノ八			



差引	殘高
損傷	返納
汚染	返納

右之通候也

年 月 日

京都府收稅長宛

何 區 郡 長 名 印

四百五十四

受 賣 他 返 納	受 取 高	越		區 別
		高		
		長	角	
				壹厘
				貳厘
				三厘
				五厘
				壹錢
				貳錢
				三錢
				四錢
				五錢
				拾錢
				計

何 區 郡 明治何年度賣藥印紙受拂計算表

計	二係 廢藥 賣 交換	毀損 其外	汚損 交換	延 納	高			計
					下	賣		
						小 計	百分 ノ九	

十九年

四百五十五

差異殘高	損傷返納	汚染返納
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、

右之通候也

年月日

何區部長名印

京都府收稅長宛

備考

- 一 越高欄内ニハ前年度計算表差異殘高ヲ記入スヘシ
- 一 受取高欄内ニハ其年度中收稅課ヨリ受取タルモノヲ記入スヘシ
- 一 賣捌人廢業其他返納欄内ニハ印紙類賣下賣捌規則第十條ニ依リ買戻シタルモノ及ヒ十七年十月當府乙第貳

- 百三拾七號達ニヨリ買上ケタルモノヲ記入スヘシ
- 一 賣下高各欄内ニハ印紙類賣下賣捌規則第十一條ニ依リ割引法ヲ以テ賣下ケタルモノヲ記入スヘシ
- 一 延納欄内ニハ印紙類賣下賣捌規則第十條但書ニヨリ延納ヲ許可シ其皆納期限翌年度ニ跨ルモノヲ記入スヘシ
- 一 損傷汚染交換欄内ニハ印紙類賣下賣捌規則第十六條ニヨリ交換下渡シタルモノヲ記入スヘシ
- 一 毀損其外欄内ニハ<sup>郡區</sup>役所ニ於テ取扱ノ際毀損シ損失拂ノ儀聞届ケタルモノヲ記入スヘシ
- 一 損傷汚染返納欄内ニハ印紙類賣下賣捌規則第十六條ニヨリ交換返納シタルモノヲ記入スヘシ
- 一 前各項ノ種目ニ編入シ難キモノアル場合ニ於テハ受入

十九年

シタルモノハ受ノ部へ拂出シタルモノハ拂ノ部へ一畫  
ヲ設ケ記入スヘシ

一 本年四月一日ヨリ六月三十日マテ賣下ケタルモノハ本  
年度ニ限リ拂ノ部へ一畫ヲ設ケ記入スヘシ

乙 第三百三十四號 七月九日 郡區町村

工事及之ニ付帶スル物品購求請負規則并取扱手續別冊之  
通改定候條此旨相違候事

但物品賣却規則ハ從前之通ト相心得ヘシ

改定請負規則附取扱手續

改定請負規則

第一條 此規則ハ京都府廳所管ノ各般工事及之ニ附帶ス  
ル物品購求等ノ請負ニ施用スルモノトス

第二條 請負人ヲラント欲スルモノハ左ノ書式ニ倣ヒ先  
ツ届書ヲ出スヘシ

御 届 書

何府縣國郡區町村番地

(寄留)寄留人ハ其本籍ヲ併記ス

一 職業何々

何 某

年 齡

印 鑑 實 〇

當御府廳請負御規則ニヨリ戶籍印影御届申上候也

年 號 月 日

何 某 印

右戶籍印影等相違無之候也

戶 長

何 某 印

十九年

四百五十九

府知事宛

本人移居轉籍シ又ハ印影ヲ改ムル片  
モ更ニ戸長ノ奥印アル届書ヲ要ス

第三條

入札書ハ左ノ書式ニ倣ヒ差出スヘシ

入札書

一金何程也

但何々修繕建築何品買上金高

右ハ請負御規則并ニ(工事仕様帳現場)(品目帳見本熟知之  
上入札候也

肩書前同斷

年號 月 日

入札人 何 某印

府知事宛

第四條

落札人ハ先ツ仕様帳ニ倣ヒ内譯明細書ヲ差出シ

爾后請負ヲ命セラレタル當日ヨリ五日間ニ請負高貳拾  
分一ノ金員ヲ身元金トシテ左ノ証書相添ヘ差出スヘシ  
但金高百圓未滿ノ請負ニ在テハ身元金ヲ要セズ

請負証書  
請負金高相當印紙  
貼用用紙美濃界紙

一金何程

請負高

此貳拾分一金何程身元金

右ハ今般何々請負仕候上ハ該御規則ヲ遵守シ何年何月何  
日ヨリ着手何年何月何日迄日數何日間ニ無相違(竣成)皆納  
可仕候若シ本人事故有之御用差支候節ハ保證人ニ於テ引  
請可申萬一御規則ニ背キ候節ハ相當御處分相成毫モ異存  
無之候仍テ証書如件

肩書前全斷

年號月日

四百六十二

請負人 何 某印

京都府何郡區町村何番戶

保証人 何 某印

府下本籍ニアラス及請負停止中  
ノモノハ保証人タルヲ得ス

府知事宛

第五條 左ノ場合ニ於テハ其入札書ヲ取消スヲアルヘシ

第一 入札ノ人物ヲ信認スル能ハサルトキ

第二 入札代價不相當ト視做ストキ

第六條 左ノ場合ニ於テハ其入札ヲ取消シ滿壹ケ年間請  
負人タルヲ停止スルヲアルヘシ

第一 入札書差出後種々ノ名義ヲ以テ其取消又ハ金員  
ノ變更ヲ請フトキ

第二 内譯明細書ヲ其示達シタル日限ニ出サ、ルトキ

第三 請負ヲ命セラレタル後身元金并証書ヲ納メサル  
トキ

第七條 請負期限内自カテ其請負ヲ辭シ又ハ官ニ於テ其  
請負ヲ果ス能ハス其他不正ノ所業アリト視認ムルキハ  
其請負ヲ解放シ爾後滿三ケ年間請負人タルヲ停止シ  
身元金ハ沒收シ請負金ハ其工事ノ出來形物品ノ納高等  
ヲ官ニ於テ見積リ其代價十分ノ七以内ノ金額ヲ下附シ  
拂濟トス

但本文處分スルニ當リ同人ニ係ル別途ノ請負アルハ  
ハ併セテ之ヲ解放シ其身元金ハ返付シ請負代價ハ本  
文ノ如ク減スルヲアルヘシ

十九年

四百六十三

第八條 余儀ナキ事狀ヨリ請負ノ延期ヲ請クモノアルハ  
 審査ノ上官ノ見込ヲ以テ相當ノ延期ヲ許スヲアルヘシ  
 第九條 凡ソ工事ノ竣成又ハ物品皆納ノ認定ハ主任官ヨ  
 リ証符ヲ渡スヘシ仍テ其以前ニ生スル都テノ損失ハ請  
 負人ノ負擔トス

但非常ノ災變ニ罹リ本人防禦ノ力ニ及ハサリシト視  
 認ルトキハ臨機詮議スルヲアルヘシ

第十條 工事及物品トモ都合ニヨリ變更ヲ生スルトキハ  
 請負人ヨリ差出シタル内譯代價ノ割ヲ以テ差引スヘシ  
 第十一條 請負代價ハ請求ニヨリ工事ノ成贖又ハ現納品  
 ノ數量ニ應シ十分ノ七ニ當ル金額ノ内借ヲ許シ其殘金  
 及身元金ハ第九條ニ記スル証符渡濟之上下付スルモノ

トス

第十二條 工事時限ハ日出ヨリ日没マテテ定法トス尤右  
 時間ハ請負人現場ニ詰切ルヘシ若シ差支アルキハ必ス  
 代理人ヲ出スヘシ

但代理人ハ本人ト連署シ主任官ヘ届出ツヘシ  
 第十三條 入札コアラサル請負ト雖モ必ス此規則ヲ履行  
 スルモノトス

請負取扱手續

第一條 請負法ヲ別テ左ノ三種トス

第一 指名入札

第二 特撰

第三 一般入札

十九年

第二條 工事及物品購求ノ請負ハ三名以上ノ指名入札ニ  
附スルヲ以テ通例トシ時宜ニヨリ特撰又ハ一般入札ニ  
付スヲアルヘシ

但特撰ハ先ツ當人ヨリ代價積書ヲ出サシメ當否調査  
ノ上取極ムルモノトス

第三條 指名及一般入札中其低札ノモノヲ取消シ又ハ取  
消ヲ請ヒ或ハ請負解放ノ場合ニ於テハ順次低札ヲ取用  
シテ請負ヲ定ムルモノトス

但其次番札ニ當ル價格不當ナリト視認ムル場合ニ於  
テハ更ニ入札又ハ特撰等ノ手續ヲ行フヘシ

第四條 請負ヲ命スルノ及ビ内譯明細書差出期限ヲ本人  
ニ示達スルニ書面ヲ以テスルハ必ス書留郵便ヲ用ユ

尤近傍ノモノハ招喚面達シ其當日ヲ記入シタル受書ヲ  
取ルヘシ

但第五條ニヨリ府廳外ノ各衙へ身元金ヲ差出サシム  
ル場合ハ其納所ヲ本條ト併セテ示達シ且其以前保管  
ノ各衙へ豫告スヘキモノトス

第五條 請負ノ身元金ハ便宜ニヨリ府廳外所在ノ各衙等  
ニ於テ保管セシム

第六條 一般入札ハ左ノ書式ニヨリ日數凡三日間新聞紙  
又ハ便宜ノ揭示場へ豫メ廣告シ其開札モ亦便宜ノ地方  
ニ於テスヘシ

入札廣告

一何々

十九年

右入札請負望之者ハ某所ニ就キ(府廳受付所又ハ某所)(仕様帳(品目書)及(現場)(見本)熟視ノ上入札書ヲ某所へ差出スヘシ

但何月何日何時開札入札人來觀勝手タルヘシ

第七條 至急ヲ要スル工事ノ竣成物品ノ納了期限ハ相當

日數ヲ見積リ仕様帖又ハ品目書ニ記シ豫示スヘシ

第八條 請負規則第六條第七條ニヨリ處分ヲ加ヘントス

ルトキハ土木課警察本署監獄本署疏水事務所等互ニ回

議スヘシ

第九條 金高拾圓未滿ノ工事又ハ物品購入ニ付テハ請負

規則ヲ履行セス適宜取扱モノトス

乙第三百三十五號 七月廿九日 郡區

今般甲第三百十三號ヲ以テ荷車取締規則ヲ發布シ荷車積載

重量相定メ來ル八月十五日ヨリ實施候就テハ從來各驛傳

組合ニ於テ認可ヲ受ケタル定量ニシテ該布達ニ抵觸スル

モノハ全日限リ消滅候義ニ付各驛傳取締所へ可相達此旨

相達候事

乙第三百三十六號 七月廿九日 郡區 署

乙第三百三十七號 八月二日 郡區 町村

度量衡検査員數計算表調製方ノ儀自今四月ヨリ翌年三月

迄一ケ年度分製表翌月十日限リ可差出

但本年一月ヨリ三月マテノ分ハ別表ニ調製十九年度計

算表ニ添へ差出スヘシ

右相達ス

乙第三百卅八號 八月二日 郡區

十九年



達第壹號 八月 郡區町村 署

達第三號 八月 丹後郡町村 署

達第二號 八月 郡區

十四年當府乙第三十七號達郡區長委任條件左ノ通追加ス  
第百廿條 職獵遊獵及威銃願ノ事

右相達ス

達第四號 八月 郡區

社寺境内官有地貸下候分借地料金ハ本年七月以後該社寺  
へ下ク渡候條貸下許可ノ日ヨリ三十日以内ニ拜借人ヨリ  
料金直ニ領収シ毎年七月十五日限り収支明細書ヲ以可届  
出旨各社寺へ官國幣社示達スへシ  
但料金ハ社殿堂宇ノ修繕苗木植付ク其他保存上不可欠

費途ヲ補充セシムへキ趣旨ニ候條不都合無之様心得へ  
シ最モ地所貸渡順序ハ従前之通

達第五號 九月 郡區町村

歳入取扱順序第六十一條ニ據リ戸長ニ於テ税金ヲ分納ス  
ルトキ事故アリテ徵稅令書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ左  
ノ通取扱フへシ

右相達ス

一 水火盜難ニ罹リ徵稅令書ヲ亡失シタルハ戸長ハ其事  
由ヲ具シテ郡區長ニ開申スへシ

一 郡區長ハ前項ノ開申ヲ得ルトキハ未納殘額ヲ取調へ其  
殘額ノ徵稅令書ヲ發スへシ

一 前項未納殘額ノ徵稅令書ハ金額ノ右側ニ左ノ如ク記載

十九年

一 金何圓何錢ノ内未納殘

達第六號 九月 郡區

印紙類賣捌人ヨリ返納スル所ノ印紙代金下付方ノ義本年  
月六 大勸省令第廿一號印紙類賣下賣捌規則ノ改正實施前後  
ヲ以テ區界ヲ立テ右下付金ノ出所ヲ殊ニスルモノニ付代  
金請求方左ノ通心得ヘシ

右相達ス

一 本年六月三十日以前ノ返納ニ係ルモノハ歲入取扱順序  
第五十條ニ據リ歲入下戻計算書ヲ以テ其代金ノ下戻ヲ  
請フコト從前ノ通タルヘシ  
一 本年七月一日以後ノ返納ニ係ルモノハ本年當廳乙第一

二 六號印紙類賣下賣捌規則取扱手續第十六項ニ據リ買  
戻シスヘキモノナルヲ以テ左ノ書式ニ照準仕譯書ヲ添  
付シ其代金下附方ヲ稟申スヘシ

但返納印紙買上ケ代金下付セシ上ハ之ヲ郡區役所元  
受高ニ組込ニ種類枚數等收稅長ニ報告スヘシ

返納印紙買戻シ代金下付稟申書

一金何程

右者當郡區内印紙類賣捌人事故ニ由リテ返納セル印紙類該  
規則第十七條ニ據リ割引ヲ以テ買戻シ候分御下附相成度  
因テ別紙仕譯書相添此段及稟申候也

年 月 日

區 郡 長 名 印

府 知 事 名 宛

十九年

返納印紙買戻代金仕譯書

一何々印紙何錢 何枚 十九年七月一日賣捌人何誰 廢業ニ付返納

此額面金何程

此割引代金何程

一何々印紙何錢 何枚 十九年七月二日賣捌人何誰 休業ニ付返納

此額面金何程

此割引代金何程

一何々印紙何厘 何枚 十九年七月二十日賣捌人何誰 賣捌方禁止ニ付返納

此額面金何程

此割引代金何程

合計額面金何程

此割引代金何程

達第七號 九月 郡區町村 署

達第八號 八月 郡區

民事訴訟身代限り又ハ税金不納ニヨリ財産ノ全部ヲ公賣  
スル際諸印紙手形用紙ヲ所持スルモノ及ヒ煙草賣藥營業  
者廢業又ハ其營業稅不納公賣處分ニ付該印紙類ヲ所持ス  
ルモノハ損傷汚染ノ分ヲ除キ印紙類面價額十分ノ一ヲ減  
シタル代價ヲ以テ買上ク其印紙類ハ郡區役所元受ニ組入  
レ買上ク代金ハ別紙書式ニ倣ヒ仕譯書ヲ添付シ別途請求  
方稟申スヘシ

但明治十七年十月當廳乙第貳百三拾七號達ハ廢止ス  
右相達ス

(別紙)

十九年

何々印紙買上ケ代金任譯書

一何々印紙何圓 何枚

何年何月何日何々ニ付何誰  
ニ買上ケ

此額面金何程

此割引代金何程

一何々印紙何錢 何枚 (前ニ同シ)

此額面金何程

此割引代金何程

一何々印紙何厘 何枚 (前ニ同シ)

此額面金何程

此割引代金何程

合計額面金何程

此割引代金何程

右之通候也

年 月 日

達第九號 九月 十一日 郡區

地方稅雜收入金は迄納証書收稅長名宛ヲ以テ収稅部へ送納セシ處自今本官名宛ヲ以テ第一部庶務課へ送納スヘシ

達第拾號 九月 十一日 郡區町村

内國稅未納追徵整理順序左ノ通相定メ十六年十月乙第百九拾號及十七年八月乙第百七拾四號達ハ廢止ス

内國稅未納追徵整理順序

第一條 郡區長ハ甲號書式ノ如ク内國稅未納臺帳ヲ調製  
十九年

スヘシ

第二條 内國稅ノ内事故アリテ翌年度十一月三十日迄ニ  
 徵收ヲ完了セサルモノハ其年度ノ未納元額トシ臺帳ニ  
 登記スヘシ但後日追徵シタルトキハ其時々臺帳ニ記載  
 シ其旨直ニ當廳ニ申報スヘシ

第三條 諸營業稅及ヒ船車稅不納者旅行又ハ失踪シ其財  
 産ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ  
 年々未納臺帳ニ登記シ置キ而シテ他日本人歸籍又ハ所  
 在發見シタルトキハ未納ニ係ル每期ノ稅金ヲ追徵スヘ  
 シ但未納ノ當初ヨリ滿三箇年ヲ經過シ尙完結セサルモ  
 ノハ其際更ニ處分方ヲ稟申スヘシ

第四條 郡區長ハ毎年度ノ末ニ於テ乙號書式ノ如ク既往  
 年度未納殘高仕譯書ヲ製シ四月十日限り當廳ニ差出ス  
 ヘシ

第五條 郡區長ハ臺帳ニ記載シタル納稅者他管ニ移住送  
 籍スルトキハ郡長ハ戶長ヨリ送籍ノ報告ヲ得タルトキ其管  
 廳ニ引繼ヘキ不  
 納書類ヲ取纏メ當廳ニ差出スヘシ

但管内他郡區ニ移住送籍スルトキハ不納ニ係ル書類  
 ヲ取纏メ其郡區長ニ引繼ヲ爲シ同時當廳ニ申報スヘ  
 シ

第六條 他管ヨリ引繼ノ書類ヲ當廳ヨリ交附シ又ハ管内  
 他郡區長ヨリ引繼ヲ受タルトキハ之ヲ臺帳ニ記入シ追  
 徵ノ手續ヲ爲スヘシ

但郡區長ハ戶長ニ詳細通報スヘシ

十九年

第七條 戶長ハ每年度税金不納者壹人別帳ニ因リ未納臺帳ヲ調製スヘシ

第八條 戶長ハ未納者他管又ハ管内他郡區ヘ送籍スルトキハ速ニ郡長ヘ報告スヘシ

第九條 戶長ハ他管又ハ管内他郡區ヨリ未納書類引繼チ受タルコトヲ郡區長ヨリ通報アルトキハ之ヲ臺帳ニ記入スヘシ

(甲號)

(本帳ハ各項限調製各目各村ニ坐取スヘシ)

明治何年度内國稅地租未納臺帳 何郡(區)役所

凡例

一未納臺帳記入式ハ左ノ各項ニヨルモノトス

第一項 年月日ト題スル欄内ニハ記帳ノ年月日ヲ記入ス

第二項 摘要ト題スル欄内ニハ未納若クハ追納ノ要領ヲ摘記ス

第三項 年度區分ト題スル欄内ニハ未納之年度(即當初徵收計算除却トナリシ年)ヲ記入ス

第四項 未納額ト題スル欄内ニハ既往年度ノ未納金ヲ記入ス

第五項 増額ト題スル欄内ニハ既往年度官損金追徵ニ係ル分ヲ記入ス

第六項 計ト題スル欄内ニハ其未納額及増額ニ係ル金額ノ合計ヲ記入ス

第七項 追納額ト題スル欄内ニハ未納額ニ對シ追納セシ金額ヲ記入ス

第八項 未納減額ト題スル欄内ニハ未納額ノ内官損或

ハ欠損等ニ係ル金額ヲ記入ス  
 第九項 計上題スル欄内ニハ其追納額及未納減額ニ係  
 ル金額ノ合計ヲ記入ス  
 第十項 過或ハ未ト題スル欄内ニハ殘高ノ區別ヲ明ニ  
 スルモノニテ過ハ朱字未ハ墨字ヲ以テ記入ス  
 第十一項 殘高ト題スル欄内ニハ過未金額ノ差ヲ記入ス  
 一官損及欠損等ノ分其場合三月卅一日以前ニ係ルモノハ  
 該當年度ノ臺帳ニ記入シ四月一日以後ニ係ルモノハ翌  
 年度ノ臺帳ニ記入スルモノトス  
 一 年度ノ末未納臺帳ヲ閉記シタル後ニ其未納殘高ハ翌年  
 度ノ未納臺帳ニ轉記スル者トス

(田) 租

何 村

年月日	摘要	年度	未納額	增額	計	追納額	未納減額	計	未過	殘高
			円	円	円	円	円	円	円	円

捺ノ印ハ朱ナリ

十九年

(田) 租 合計																						

何村外何々村






(乙號)

明治何年度地租既往年度未納殘高仕譯書 何區(郡)役所

凡例

- 一 仕譯書ハ各項限リ調製各稅トモ此雛形ニ準ス
- 一 未納越高ハ前年度ノ未納殘高及前年度ノ官損金追徴高ヲ合計シタルモノヲ記入ス
- 一 官損及欠損高并追納高ハ會計年度内即チ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ屬スル分ヲ記入ス
- 一 追納高ノ内未納追徴ノ分ハ前年度未納額ニ對スルモノニシテ官損金追徴ノ分ハ前年度官損金後年ニ至リ追徴

- シタルモノナリ
- 一 未納殘高ノ内各年度ノ區分金額内譯事故記載方ハ未納殘額ノ實況ヲ知ルニ止ルモノニ付事故ノ異ナル毎ニ其大要ヲ摘記ス
- 一 用紙常用美濃罌紙

明治何年度

既往年度未納殘高仕譯書

一金三十拾七圓四拾錢

田租未納越高

内金貳圓五拾錢

官損及欠損高

内譯

金貳拾四圓貳拾錢

追納高

金拾七圓

未納金追徴ノ分

内金六圓貳拾錢

官損金何々ニ付追徴ノ分  
但何年度分指令何號

十九年

四百八十七

官損金何々ニ付追徴ノ分

但何年度分指令何號

未納 殘 高

差引金拾圓七拾錢

內

金 八 圓

何 年 度 分

是ハ何々事故ニ付未納金四圓拾錢何々事故ニ付未納金三圓九拾錢合シテ本行ノ通

金貳圓七拾錢

何 年 度 分

是ハ何々事故ニ付未納金壹圓貳拾錢何々事故ニ付未納金壹圓五拾錢合シテ本行ノ通

一金拾七圓

畑租未納越高

內 譯

金五圓貳錢壹厘

追 納 高

內

金三圓拾三錢壹厘

未納金追徴ノ分

金壹圓八拾九錢

官損金何々事故ニ付追徴ノ分  
但何年度分指令何號

差引金拾壹圓九拾七錢九厘

未 納 殘 高

內

金拾圓五拾錢

何 年 度 分

是ハ何々事故ニ付未納

金壹圓四拾七錢九厘

何 年 度 分

是ハ何々事故ニ付未納

右之通候也

年 月 日

何郡(區)長氏名印

京都府知事宛

達第拾壹號 九月 十二日 郡區町村 署

十九年

甲第壹號 九月 郡區町村

虫害驅除豫防方法ニ付今般別紙ノ通告論候條部内人民へ  
無洩承知セシメ候様取計フヘシ  
右相達ス

告諭八

害虫ハ農家ノ大敵タルコト今更言テ俟タス不幸ニシテ一  
朝其發生ニ及ソテヤ蠶毒ノ流ル、所管ニ一區一域ニ止マ  
ラス故ニ苟モ農業ニ從事スルモノハ之ヲ未發ニ防遏シ己  
發ニ驅殺シ自他ノ幸福ヲ護ルニ勉ムヘキナリ現ニ本年ノ  
如キハ管下各所ニ螟虫發生セシテ以テ過般來驅除ニ着手  
シ目今稍其効ヲ奏スルニ至レリ然レモ一旦該虫發生セハ  
飽マテ驅除ニ力ヲ尽シ遺種ヲ絶ツニ非スンハ翌年ニ至テ

復發生シ爾來年々歳々幾多ノ損害ヲ蒙ムリ終ニ言フ可カ  
ラサルノ慘狀ヲ見ルニ至ルヘシ然ルニ從來ノ慣習トシテ  
虫送リト稱ヘ鐘太鼓ヲ鳴ラシ又ハ無益ノ祈禱等徒ニ痴迷  
ノ手段ヲ取リ以テ自ラ安ソシ願ミルナキモノ蓋シ浸潤ノ  
久シキニ由ルトハ雖亦各自深ク思ハザルノ甚シキモノナ  
リ依テ今般甲第七拾九號ヲ以テ虫害豫防規則ヲ達シタリ  
苟モ農業ニ從事スルモノニシテコノ禍ニ罹ルアラハ其ノ  
困陋ノ頑夢ヲ覺破シ該規則ト左ノ驅除法ヲ參酌シ勉メテ  
驅除豫防ヲ怠ラズ以テ自他ノ福祉ヲ全フスルヲ圖ルベシ  
右告諭ス

明治十九年九月八日

京 都 府

害虫驅除方法

十九年

螟蟲 すいひし

螟蟲の氣候の異なるに随かひ發生の遲速形狀の大小一ならずと雖とも要するに大抵の四月下旬露頃に發生する微細なる虫にして初め白色を帯ひ成長するに随かひ薄茶色となり終に濃茶色に變じ凡そ七分許の大きとなり背に薄黒色の斑紋を生す此蟲冬の稻株又た莖の中或は他の叢棘の中に潜み春時暖和の日に至り白色の蛾に化し稻田に聚まり稻葉の岐或は藁の袴に卵を産付す其卵直ちに孵化えて莖中に蝕入芝養液を吸収えて稻を枯らし復た蛾となり出て、卵を産み孵化えて再び莖中に喰ひ入り節を追て喰ひ上り又蛹となり蛾に化し卵を産み慘毒を遺ること初の如し其害言ふ可からず年々如斯なるを以て其繁殖の速かなる

他の蟲類より幾倍なるを知らず曾て聞く青森縣下の如きは此害虫の爲めに田野青色を見さると三年に及へりと實に害虫中の最も憎むべきものなり之を驅除するの法未だ其充分なると得ずと雖ども其數未だ多からざる時の一々拾ひ取り之を撲滅するの外他に良法なきものゝ如し故に農業に従事する者常に其害の恐るべきを忘れず日常之が豫防に注意を耕耘の際苗の勢氣を窺ひ葉の黃色なる者を見るどきの盡く之を摘み採り之を點檢し若し虫の憂ある時の悉皆燒棄つべし田面處々に於て此害あるを見るに至るは日中に田水を湛へ天竺桂油又は魚油鯨油間鰐油或は石油壹反歩に付を滴らし一株毎に就き細き竹にて株を振ひて虫を落去而えて水を抜き兩三日乾かして再び水を引

十九年

なり又蛾の總て朝露の未だ乾かぬ中に容易に捕らへ得るものなれば早天に之を捕へ又日暮より田間處々に焚火を點し下に鹽又の雷盆類に水を盛り前に言ふところの油を滴らし置く時の蛾の火に聚り油水中に落ちて死す又明松箒等を處々に焼き置くも効ありと雖ども焚火の費用少なきに如かず

又熊本縣下玉名郡小天村片山源吉の試験に依れり茶梅の實の油粕汁茶梅の實の搾粕二斗を水九斗に和し田壹反歩に注ぎ之を掻き混ぜ置けり害虫三日間に稻葉の表に死すと云

此害に懼り玄稻の刈採て后株根を掘り起し焼きて灰となし又の積肥材料とし石灰糞汁等を施し充分蒸腐して用ゆ

べきなり刈採たる藁の藪或の納屋等に納れ窓戸を開置藪用の時の取出して充分に撲蛾発生するに及んで盡く之と撲殺するどさの容易に驅除し得るなり

浮塵子 こぬかむし、さねもり蟲

浮塵子の土地により少しく形を異にすど雖とも大抵始生の時の微細なると恰も米糠の如くあるを以て粉糠虫の名あり後に生長して一分許の蛾とあるなり其蔓延の速かるる實に驚くべきなり此蟲の生するや稻莖の液汁を吸ひ莖葉盡く枯れ己に登たる穀も空しく枯稿をるに至る眞に恐るべきもれなり

之を驅除するにの孵化發育と否とに拘らず魚油石油芥子油何れも一反歩又の生石灰水を根際に滴し株毎に細き竹に付三四合計

又の手にて虫を水中に振り落すを最上の驅除とす又夜の  
焚火を設けて焼き殺すも其効なきにあらず  
さねもり虫の殊に火光を戀ふと甚しきを以て焚火に招き  
殺す時の最も効あり

苞虫 つとみむし はまくり虫

苞蟲の種類多しと雖とも大抵の其形尺蠖の如く七八月  
の頃稻田に發生して稻葉を喰ひ白絲を吐て數葉を綴り晝  
の其中に潜み朝夕出て害を爲し大に出穂を妨げ三週間許  
を経て蛹とあり又蛾に化し卵を産む  
之を驅除するに其未だ蔓延せざる時に除草の際葉に卵  
あるを見れば盡く之を摘み採り又葉を綴る者を索めて之を  
攪み殺すべし其蔓延に至ては稻扱機の器にて稻葉を梳り

葉の綴れるを解き害虫を捕り集め深き穴を掘り之を埋づ  
め又の焼き棄るなり又後れて孵化せしもの田畔或は田  
路の雜草に卵を産附するものなれば冬月火を放て之を焼  
くを良とす

苞虫の中一種其害を異あするものあり六月頃に稻田に在  
て稻葉を衣とし其中に潜み恰も糞虫の如し之れを捕へん  
とすれは忽ち水中に沈み其孵化するものも亦稻葉を捲て  
衣とし水面に浮みて稻株の養液を吸ひ後化して直ちに産  
卵し又速に孵化して妙となる

之を驅除するに水に浮べるもの魚油石油を濯ぎて驅  
殺するを効あるものとす併ながら小さき繩網にて掬ひ集  
め驅殺するを最も良とす己に化して蛾となるに及んで

日暮より燈火を設けて之を驅除し又早朝或は降雨の日に於て撲殺する等螟虫驅除の方に等し

螟蛉 方言はむし又あをむし

螟蛉の其色淡青又ハ淡黄にして五月下旬頃より發生し苗代にありて苗葉を喰ひ後葉を折り疊みて其中に繭を造り蛹となり蛾に化し出て産卵す卵より蛾となるの間僅かに三十日に過すして一年間兩度又ハ三度發生するものなり之を驅除するにハ五月の頃虫の未だ孵化せざる以前に苗代を屢々見回り苗葉に卵の附着するを摘採るに在り己に孵化するに至りてハ鯨油間鰐油石油等を田水に滴し草蓆を以て虫を水中に掃ひ落し驅殺す又蛹の繭にあるを索め捕り之を焼き棄て己に蛾に化するに至りてハ日暮より燈火

を以て招殺す移植の期に至りて能く苗葉を檢めて卵を摘採るに怠る可からず

地蠶 方言ねさりむし

地蠶ハ其種類至て多し五六月頃畑地に發生し植物を害するあり又九十月頃出て植物を損ふものあり茄子胡瓜蠶豆大小豆麻蕎麥等の生育するに當り根際を嚼みて全莖を倒し或ハ根を咬み又ハ芽葉の軟かき部を喰ふ盡ハ地中一寸許の所に蟄伏し夜に入り出て、害を爲し后生長して一寸乃至一寸五分許に至り終に地中に於て蛹となり蛾に化し出て卵を植物の葉又ハ莖に産付す之を驅除するにハ春時香附子畑地等に繁茂の名花を探り集め能く干して粉となし之を撒布して植物を植る時ハ其害を

受くること少なじ又移植の節虎杖の莖長さ三四寸なるものを畦間一二尺毎に挿み置けの害虫を悉く虎杖に聚まるなり其時に於て之を捕へ集めて驅殺すへし又艾の煎汁に硫黄石灰水等を和し早朝虫の未だ地中に潜まざる先に畦間に注ぎ植物を振り動かし虫の畦間に落ちたるものを集め採り驅殺す又馬酔木の葉を水煎して灌ぎ或は緑礬水を灌ぐも可なり又瓦斯灰新鮮なる石灰硫黄煙煤を混和し朝夕露の乾かぬ先に撒布するも宜しとす

又畦間處々に穴を掘り又の小溝を掘り置き毎朝見回りて其中に虫の陥りあるを捕獲するも其功あるものなり

藍害蟲 あいむし

藍害虫は其種類種々あり方言がく「虫ぶひく」虫なるもの

の新芽を蝕害し生長を妨ぐ又二番手入後の頃より細かき虫を発生せるとあり此虫は其蔓延の如何に因て本作豊凶の分る、程の者にして甚しき皆無に至らしむるとある等實に恐るべき害虫なり

之を驅除するに「がく」「ぶみく」虫を一々手にて取り殺し若し蔓延に至るときは葉と共に揉み潰すべし二番手入後のもので最初逐一點檢して之れを捕殺するも蔓延に至りては手力能く及ばざるを以て早朝露の乾かざる中藍畑に十分清水を灌ぎ而して一面に莖薦類を以て覆ひ置ときわ二三時間を経ずして害虫を悉く薦莖の上に這ひ出するなり徐々之を捕へ穴を埋め或は其莖を火の上に於て掃ふ時を簡便にして驅除し得るなり



桑害虫尺蠖 びやくむし

桑害虫尺蠖の十月上旬より發生して落葉の候大きき三分となり寒中を凌ぎ翌春發芽の頃八九分となり蠶の四眠頃に二寸三分にも生長し爾后糸を以て桑樹に足を懸け倒に下垂し其形黒き棒の如くなりて躰中より數多の蛆虫を生じ羽化して蚊の如き虫となり飛去る又百中の一或は千中の一の根際に降りて繭を造り化して蛾となり卵を桑樹に産するものあり大に恐るべきの害虫なり之れを驅除するに落葉の頃葉と共に抜き採葉の肥料に宜しり之れを殺す時の十中の八九の驅除するを得べし或は曰萌芽の頃一の點檢して缺を以て虫の首を剪取するも亦可あり一人一日に大約貳反歩の虫を驅除するを得べし又蛾を

捕へ卵を潰す時の殲滅の効ありと然れども該虫の營繭するや千中の一にして之と見ると實に稀なり且根刈等の桑にして早く養蠶に供する時の桑と共に刈採るを以て虫種の残るもの極めて少なき筈なるに年により多少此虫害あると見れば或は他の虫の化生せしものなるも知りかたし等の説農務局栽桑實驗録に見へたり藥劑等と以て之を驅除するに却て蠶兒に害を及ぼすの恐れあり故に假令に幾多の人夫を使用するも晩秋又は初春に於て一々拾ひ取るを最良の驅除とす

害桑粘蠹 方言桑の(けむし)

害桑粘蠹の桑樹の嫩芽を生ずるに當り一種の粘蠹出て、蝕し蔓延する時の葉を喰盡するに至る漸次成長して小の五

六分より大の一吋許に及び全身に赤黒黄白等の細毛を生ず後老熟して更に四翅の白蛾に化し葉底に薄黄色の卵を産付す而して此虫の茶樹に生するものと同じくこれに觸るれば甚しき痛痒を發す

之れを驅除するには春季卵の未だ孵化せざるに當り或わ己に孵化するに至るも未だ諸葉に散亂せざる時に於て小枝を剪採り又の苛性石灰と石鹼との混和水を製し布片に浸して枝條に塗抹すべし卵わ多くわ葉に附着するものなれば落葉の頃葉を集収して焼き棄つべし

此蛾わ正午の頃わ樹中に潜伏するものなれわ此時に於て精々捕へ殺すべし

害茶粘蠟 方言茶の(けむし)

茶樹に一種の粘蠟を生ず此虫わ四五月の交出て、茶葉を蝕し次第に成長して全園中に蔓延し園中亦一の古葉をも残さ、るに至ることあり後樹下に降りて蛹となり春暖を待て蝶に變じ卵を留む而して摘葉の際誤て此虫に觸れば忽ち虫毒に感じて甚しき痛痒を發するものなり之れを驅除するには苦參の莖根を細かく刻み水に浸すと兩三日にして新に焼きたる石灰并に草木灰を混じ草箒を以て灑ぐべし又硫黄石灰等の煎汁を灑ぐも可なり且つ常に園内を檢し卵の葉に附着するものわ摘採りて焼き棄て枝條にあるものわ燈油に浸せし布片と以て拭ふべし此虫の毒に感ぜし時わ煙草の脂液或わ烟草に小許の熱湯と濯ぎ汁と搾て患部に塗抹すべし其他灰汁鹽を塗り又の水

銀膏てればん油等を外用せば容易に治すべきなり

害茶尺蠖 方言云やくとりむし

害茶尺蠖は三月下旬より四月上旬の交に發生す恰も蠶毛の如し螟蛉の初めて茶園に散見するや口より細き織を吐き自ら其糸に懸り風向に任せて茶園に蔓延し晝間の枝葉の裏に棲息し夜間枝梢に登り嫩芽と蝕ふ凡そ四五週間を経て五月頃色を變じ一寸五六分れ大さとなり益々蝕害を逞ふす一日一虫にて嫩芽四五枚を貪り嚼ふに至る喰飽て後脱皮し蛹体に化し落ちて土中にあること二週間許六月にして羽化して蛾となり夜陰交尾して直ちに一千五六顆の卵を産む故に蕃殖殊に速かなりこれを驅除するには三月下旬より四月中旬の際茶園内若

くに近傍の柿の木の皮又わ小屋の壁等に於て蛹化の稚虫を見る時天竺桂子の煎汁該實一升水割合鹽水又は石灰水等を澆ぎ殺すべし此虫此等の藥汁を以て驅除し得るも茶の芽摘採の期に當てり藥汁を澆げば製茶の香味を害するを以て株下に箕の類を準備し竹の枝等を以て枝梢を振ひ捶かし虫の箕中に落つるを捕へ集め殺すべし然れども數週日を経過すれば枝梢を振捶するも決えて落ちざるが故に夜中枝梢に登ると捕らへ殺すべし又枝梢の間に於て虫と見ざるに至れば其生育せし樹根の土中を搜索せ蟄伏する處の尺蠖又は蛹を殺すべし土中蛹を見ざるに至れり夜中火を點え蛾を招殺すべし雌蛾の跡中孕卵あきに至りて蛾を驅るの外其駐着せる所の樹木等に石灰水又天竺

桂子の煮汁を塗抹し卵を驅殺すべし

害茶卷葉虫 茶の(葉まきむし)

害茶卷葉虫の卵の微細にして肉眼これを見ると難し漸く  
孵化して螟虫となるに至れば糸を吐て芽葉を捲束し其中  
に蠢動し葉の養液を吸ひ葉を蝕し遂に枯死に至らしむ尙  
飽かさるもの他枝に移り害すること又前の如し終に蛹  
に化し次て蛾となり園内を飄飛し數百の卵を茶樹に産附  
す如斯すること一年間凡三回其繁殖の甚しき思ふべきな  
り  
之れを驅除せんには卵を肉眼見難きを以て驅除其法を施  
し難し己に螟蛉となり害を爲すに至れわ日出より午前八  
時頃迄わ包葉中に蠢動する害虫の上部稍々統びあるを以

て此際石鹼五十目を水二升五合に溶解去石油壹合半を和  
し(出種小なれ)藁箒様のものを以て隔日に數回之と撒布  
すべし蛾の晩景より園中に燈火を設けて聚殺せし  
甲 第貳號 九月 廿一日 郡區長

客月三日番外二八五號達第九項施行手續左之通相心得へ

第一 便宜施行スヘキ工事ハ最モ急施ヲ要スルモノニ限  
ル(假令ハ堤防切所水留工事若クハ道路橋梁大破コテ往  
來不通ノ箇所一時ノ假工ヲ施設スルノ類)故ニ急破ニ基  
因スルモノト雖モ復舊本築ノ工營ハ第九項ニ掲クル限  
ニアラヌ

第二 前條急施ヲ要スル場合ニ於テハ直ニ其概況ヲ届出

十九年

並別紙書式ニ倣ヒ工費豫算書ヲ製シ該金額假受方申出

第三 人夫賃職工賃物品代價及人夫掛リ等ハ時ノ變常ト  
土地ノ便否ニヨリ自ツカラ差違アルヘシト雖モ接近郡  
區ノ間大差ナキヲ要ス故ニ毎年度其賃價表及人夫掛リ  
表等ヲ製シ當廳第三部土木課ヨリ送致セシムルヲ以テ  
之ヲ標準トシ各郡區實地ノ景況ニヨリ多少ノ斟酌ヲ加  
ヘキモノトス

第四 毎町村工事竣成ノ日其屆書ヲ差出爾後二十日以内  
工費精算帖ヲ製シ假受金額ノ過不足ニヨリ受納ノ手續  
ヲナスヘシ

(別紙)

明治何年度  
急破修繕費豫算書

紙員何枚 (印) (主任捺印) (印) 某郡區役所

某郡區某町村

某何通字某

一堤防切所堰留 長何間 幅何間

此工費金、、、 (印) (主任捺印以下同斷) (印)

某街道筋字某

一道路切所堰立 長何間 幅何間

此工費金、、、 (印) 朱

全

十九年

一假橋架設

此工費金、  
合計金、  
右ハ何年何月何日ノ水害ニヨリ急施ヲ要スル工費豫算前  
記之通ニ有之候也

右ハ何年何月何日ノ水害ニヨリ急施ヲ要スル工費豫算前  
記之通ニ有之候也

年月日

府知事宛

郡區長官姓名印

甲第三號 九月廿四日 郡區町村

明治十四年四月當廳乙第七號達府會議員撰舉被撰舉權ヲ有  
スル人員及明治十八年九月乙第四百四拾九號達區町村費取調  
書ノ儀本年以降戶長役場ヨリハ毎年十月十日限リ郡區役  
所へ差出シ郡區役所ニ於テハ別ニ郡區内ノ總計書ヲ作リ

十月廿五日限リ當廳へ差出ス  
右相達ス

甲第四號 九月

明治十五年七月乙第百拾貳號達地方稅出納規程中第拾五號  
明細表書式之内旅費之項ヲ更正スル左ノ如シ

汽車賃	汽船賃	管外車馬賃	急行車馬賃	管外日常	計	金官氏名
何里	何海里	何里	何里	何日	分	金何圓
何圓	何圓	何圓	何圓	何圓	何圓	金何圓

何々御用ニ付何年何月何日何處出發何府縣何處へ出張  
全何日着何月何日全所出發全何日歸着此往返  
何日分一日金何錢ッ、  
汽車何里ニ付金何錢  
汽船何海里ニ付金何錢  
里程何十里ニ付金何錢

急行ニシテ實費拂テ許可シタル例  
十九年

④何々御用ニ付何月何日午後何時何地出發全何日午後何時何處出發全何日午後何時何處出發全何日午後何時何處出發全何日午後何時何處出發全

時何處ニ着此片道何里何丁全何日午後何時何處出發全何日午後何時何處出發全何日午後何時何處出發全

何日午後何時歸着此往返急行合里程何里車馬賃實費拂

許可之分及日當何日分一日ニ付金何錢ツ、

右相達ス

甲第五號廿八日郡區

郡區書記旅費之義ハ本年閏令第拾四號及內務省令第拾五

號ニ依リ來ル十月一日ヨリ施行スヘシ

但月俸拾貳圓己下ノ分モ本文ニ依リ支給スヘシ

右相達ス

甲第六號十月郡區町村 署

甲第七號十一月郡區

本年八月三日番外達郡區長處分條件第十項刪除ス

右相達ス

甲第八號十月郡區町村

明治十八年十一月十一日當廳乙第百七拾八號達死亡者年齡區別表

左ノ通改定ス

右相達ス

死亡者年齡區別表 (明治 年) 郡區(町村) 名

生	年		第一類		傳染病
	女	男	第二類	第三類	
性	病	養	及	發育	病
病	筋	骨	及	節	器
器	管	病	呼	吸	器
病	殖	器	及	泌	病
死	症	不	詳	原因	類
合計					
肺	病	類	內	第七類	名

十九年

十九年

同	同	慶	同	同	同	同	同	同	同	同
元	二	三	元	二	三	四	五	六	七	八
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生

同同同同同同同同同同同同同同同同

五百十七

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
九	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
年	年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	十	十
生	生	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

同同同同同同同同同同同同同同同同女男

五百十六



元治元年生	以下順次年曆	ヲ逐テ記載ス	〜シ	生年不詳	合計
同	同	同	同	同	同

一 戸長ハ前年中其町村内ノ分チ一表トシ翌年一月十日迄  
 = 郡區役所ニ差出シ郡區長ハ其郡區内ノ分チ一表トシ  
 全廿日迄ニ當廳第二部衛生課ニ送付スベシ

一 死亡者ハ其埋(火)葬認許證ヲ附與シタル土地ニ於テ其數  
 ヲ掲載ス〜シ

一 死體ノ棄兒ハ欄外ニ其男女及推測ノ年齢ヲ記載ス〜シ

一 病類ノ細目ハ明治十六年七月衛生課ノ通報ニ依ル戸長  
 ハ其郡區役所ニ就テ見ル〜シ

一本表中死者アル年曆ニ係ルモノ而已ヲ掲ケ死者ナキ年  
 曆ハ列記スルニ及ハス例ハ慶應三年生ノ死者ナキ年  
 ハ全二年ヲ以テ直ニ明治元年ノ次ニ列記スルガ如シ

甲第九號 十月九日 郡區

其役所定額支給方中雇一八月額六圓己下ノ處今後八圓己  
 下トス

右相達ス

甲第拾號 十九日 郡區町村

戶口取調表ノ議ニ付去ル明治十七年乙第六拾壹號ヲ以テ  
四期 三月 六月 九月 十二月 差出スベク旨相達置候處爾後報告ニ及ハ  
ス

右相達ス

甲第拾壹號 十九日 郡區

本年本府乙第七拾六號達中徵收濟報告書式別紙ノ通更正  
ス

右相達ス

何年度歲入

内國稅

一金何圓

地租

内

金何圓

田租

内 金何圓

第何期分  
何年度分 〔過年度收  
入ノ分〕

金何圓

畑租第何期分

一金何圓

証券印稅

内

金何圓

印紙稅時々ノ分

一金何圓

菓子稅

内

金何圓

製造營業稅

内 金何圓

一月三十一日限ノ分  
七月三十一日限ノ分

十九年

五百廿一

五百廿二

時々ノ分

處分着手中上納ノ分

一金何圓

地租

内

金何圓

田租第何期分

處分濟上納ノ分

一金何圓

地租

内

金何圓

田租第何期分

計金何圓

右之通候也

年 月 日

何郡(區)長氏名印

府知事宛

甲第拾貳號 十九日 郡區

明治十六年一月當廳乙第五號達地方費科目順序中郡區吏員  
給料旅費及廳中諸費ノ内書記月給ノ次へ雇月給ノ小科目  
ヲ増加シ諸雇給ノ細節筆算者ノ節目ヲ刪除ス  
但十月一日ヨリ施行ノ義ト心得ヘシ

右相達ス

甲第拾三號 廿一日 郡區町村

明治十四年七月當廳乙第三拾七號達郡區長へ特ニ委任スル  
條件第貳條ヲ刪除ス(郡區長不在ノ時書記ヲシテ代理セシ  
ムルヲ)

右相達ス

十九年

五百廿三

甲第拾四號 廿六日 郡區 署

甲第拾五號 三十日 區町村

戶長役場用係ハ一名トシ月俸八圓筆生ハ月俸六圓已下ヲ以テ適用支給スヘシ

但定額ノ餘裕ヲ以テ臨時雇ヲ使用スルヲ得

右相達ス

甲第拾六號 十一月 郡區町村 署

甲第拾七號 十一月 郡區

明治十五年七月乙第百拾貳號達地方稅出納規程中第三拾貳條ヲ更正スル左ノ如シ

第三拾貳條 俸給事務ニ從事ス支給方ハ本年勅令第三拾六號判任官俸給令及大藏省令第貳拾號ニ依ル

但巡查看守俸給支給方ハ本年內務省令第貳拾三號ニ依ルヘシ

右相達ス

甲第拾八號 十一月 郡區町村

今般內務省令第貳拾貳號ヲ以テ戶籍取扱手續制定相成候

ニ付テハ戶籍登記書式等別冊之通相定候條此式ニ依リ本

月二十日ヨリ向一百日間ニ戶籍簿及副本ヲ調製スヘシ尤

モ舊戶籍ハ紛亂セサル様保存スヘシ

但本年七月當廳乙第百貳拾八號達ハ廢止ス

右相達ス

戶籍登記書式第壹

十九年

年號月日第何番戶ニ移ル(印)		年號月日何府何區何町平民氏名長男名ニ嫁ス(印)	
京都府何區組何町第何番戶		年號月日何縣何郡何村平民氏名次女入籍ス(印)	
年號月日何縣何郡何村何番地ニ轉籍(印)		年號月日何府何區何町士族氏名長女入籍ス(印)	
年號月日相續(印)年號月日願濟改名(印)年號月日願濟		年號月日願濟廢嫡(印)	
復姓(印)		年號月日願濟	
前戶主	亡父氏名	主	母
士族	年號月日華族ニ列セラル	長	妻
印ハ總テ朱ナリ	五百廿六	男	女
年號月日華族ニ列セラル	復姓號 新名	年號月日生	年號月日生
年號月日華族ニ列セラル	氏 名	年號月日生	年號月日生
年號月日華族ニ列セラル	年號月日生	年號月日生	年號月日生
年號月日華族ニ列セラル	年號月日生	年號月日生	年號月日生

年號月日何府何區何町平民氏名長男名ニ嫁ス(印)		年號月日何縣何郡何村士族氏名養女トナル(印)	
年號月日願濟何縣何區何町何番地ニ分家ス(印)		年號月日何府何郡何村平民氏名次女入籍ス(印)年號月日願濟夫名ニ從ヒ分家ス(印)	
年號月日願濟		年號月日願濟	
長	次女	次男	女
年號月日生	年號月日生	年號月日生	年號月日生
弟	弟	弟	弟
年號月日生	年號月日生	年號月日生	年號月日生
妻	妻	妻	妻
年號月日生	年號月日生	年號月日生	年號月日生

十九年

五百廿七

十九年

何縣何郡何町平民氏名次男年號月日母名離婚復歸ニ付願濟券帶 印 年號月日當府何區何町平民氏名養子トナル印	年號月日何府何區何町士族氏名長女入籍 印 年號月日何府何區何町士族氏名方ニ離婚復歸ス印	年號月日何府何區何町平民氏名長男名妻離婚ニ付復歸印 年號月日養子名妻トナル印	年號月日何縣何郡何村士族氏名次男長女名婚養子トシテ入籍 印
從	弟	婦	孫
叔母名次男	長男名妻	長男名長男	長養子名妻
年號月日生	年號月日生	年號月日生	年號月日生
名	名	名	名
子	養女	女	子
年號月日生	年號月日生	年號月日生	年號月日生
名	名	名	名

五百廿九

年號月日願濟膏府何郡何村何番戸亡氏名絶家ヲ再興ス印	年號月日何縣何郡何村士族氏名ニ嫁ス印	年號月日願濟大叔母ヲ大伯母ト正誤ス印 年號月日失踪印 年號月日滿八十歳ニ付除籍 印	年號月日失踪 印 年號月日何縣何郡何村ニ現在 印	年號月日何地某裁判所言渡ニヨリ何縣何郡何町平民氏名妻離婚ニ付復歸 印
弟	妹	伯叔母	叔	父
亡父名三男	亡父名次女	亡曾祖父名四女	亡祖父名三男	亡祖父名次女
年號月日生	年號月日生	年號月日生	年號月日生	年號月日生
名	名	名	名	名
母	叔	父	叔	母
年號月日生	年號月日生	年號月日生	年號月日生	年號月日生
名	名	名	名	名

五百廿八

總朱也

戶籍登記書式第貳

京都府何區組何町  
郡何村

年號月日何町何番地地先ニ於テ拾上(印)年號月日何  
町平民氏名養子トナル(印)

年號月日何町通何處ニ於テ拾上(印)年號月日何縣何  
郡何村平民氏名引受トナル(印)

棄

兒

棄

兒

氏——名

推測何年何月生

氏——名

推測何年何月生

五百卅

十九年

五百卅一

備考 願濟又ハ確定裁判言渡ニ係ル事項ハ年號月日願濟云々年號月日何地何裁判所言渡云々ト記スヘシ

朱線ハ除籍又ハ氏名身分變換又ハ訂正ヲ登記スルルニ盡スルモノトス

戶籍ハ戶番號ノ順序ニ從ヒ編製スヘシ

旅行ノ者ハ發足ノ年月日期限行先等該戶籍面ヘ付箋ヲ以テ記シ置歸宅ノ節ハ之ヲ取除クヘシ

幼戶主ニシテ後見人ヲ定メ届出タルルキハ後見人ノ原籍姓名届出ノ年月日等ヲ幼戶主ノ戶籍面ヘ付箋ヲ以テ登記シ解任ノキ之ヲ取除クヘシ

戶主ニ代替アルトキハ先ツ退隱除籍死亡年月日相續年月日等各本人ノ欄内ヘ登記シタル上戶籍取扱手續第拾四條ノ手續ヲナスモノトス

入寄留簿登記書式第一

京都府 區組 何町何番戶借家寄留

年號月日退去届出印

年號月日妻外一名携帶寄留届出印

年號月日寄留届出印

年號月日退去届出印

本籍何縣何郡何村何番地

印ハ總テ朱ナリ

平民戶主氏名

世帯主	父名久男	年號月日生
妻	名	年號月日生
長女	名	年號月日生
次女	名	年號月日生
女	名	年號月日生

十九年

五百三十三











何月何日受領

何村何番戶平民氏名三女

名

右年號月日本府何郡何村何番戶氏名方～寄留何月何日發  
送屆書何月何日受領

何村何番戶士族氏名弟

名

右年號月日本府何郡何町何番戶氏名方～寄留何月何日發  
送屆書何月何日受領

出寄留簿書式第二

他府縣之部

何町何番戶士族氏名次男

④年號月日復歸何月何日届出印

名

右年號月日何府何區何町何番地氏名方～寄留何月何日發  
送屆書何月何日受領

何町何番戶平民

氏名

母名

妻名

右年號月日何縣何郡何村何番地～寄留何月何日發送屆書  
何月何日受領

登記目錄部門并事項書式第一

登記目錄

加籍目錄

十九年

本籍人管内出生之部

本籍人管外出生之部

棄兒之部

無籍者就籍之部

他府縣ヨリ入籍之部

一 結婚入籍

二 縁女入籍

三 養子女入籍

四 相續人入籍

五 携帶者入籍

六 親族入籍

七 私生子引受

八 棄兒引取

九 棄兒引受替入籍

十 離婚復籍

十一 養子女離縁復籍

十二 相續人離縁復籍

十三 分家入籍

十四 分家者復歸入籍

十五 附籍者入籍

十六 附籍者別立入籍

十七 絶家再興入籍

十八 轉住入籍

他郡區ヨリ入籍之部

十九年

事項同上

他戸長役場管内ヨリ入籍之部同郡区内他ノ戸長役場管内ヲ云フ以下做之 朱

事項同上

登記目録部門并事項書式第二

登記目録

除籍目録

本籍人管内死亡之部

本籍人管外死亡之部

失踪者及重籍者除籍之部

他府縣へ送籍之部

一 結婚送籍

二 縁女送籍

三 養子女送籍

四 相續人送籍

五 携帶者送籍

六 親族送籍

七 私生子引渡

八 棄兒引渡

九 棄兒引受替送籍

十 離婚送籍

十一 養子女離縁送籍

十二 相續人離縁送籍

十三 分家送籍

十四 分家者復歸送籍

十五 附籍者送籍

十六 附籍者別立送籍

十七 絕家再興送籍

十八 轉住送籍

他郡區へ送籍之部

事項同上

他戸長役場管内へ送籍之部

事項同上

登記目錄部門并事項書式第三

登記目錄

管内異動目錄

管内送入籍之部

異動之部

事項加籍目錄入籍之部除籍目錄送籍之部 = 同

一 戸内結婚

二 戸内離婚

三 家名相續

四 廢戸主

五 廢 嫡

六 廢嫡者復立

七 私生子爲嫡出

八 棄兒立戸

九 失 踪

十 失踪者復歸

十九年



十一 失踪者所在分明

十二 改名

十三 復姓

十四 身分變換

十五 廢家

十六 絕家

十七 轉住

十八 戶籍訂正

登記目錄書式第一

明治何年加籍目錄

本籍人管內出生之部

第號

何村何番戶士族

父

母

次男

右名何月何日出生何月何日屆出

氏

妻

名 名 名

第號

何村何番戶平民氏名長男

父

母

長女

右名何月何日出生何月何日屆出

婦

孫

名 名 名

第號

何村何番戶平民氏名妹

母

私生男(女)

名 名

十九年

右名何月何日出生何月何日届出  
登記目錄書式第二

明治何年加籍目錄

本籍人管外出生之部

第號

何村何番戶平民氏名弟

父

母

長男

弟 名

妻 名

甥 名

右名年號月日何府何區何町ニ於テ出生何月何日發送届書  
何月何日受領

第號

何村何番戶士族

父

氏 名

母

長女

妻 名

名

右名年號月日何縣何郡何村ニ於テ出生何月何日發送届書  
何月何日受領

第號

何村何番戶士族氏名叔母

母

私生男(女)

名

名

右名年號月日何縣何區何町ニ於テ出生何月何日發送届書  
何月何日受領

登記目錄書式第三

明治何年加籍目錄

乘兒之部

十九年

第號

棄兒

五百五十四

氏名

推測何年何月生

右何月何日何村何番地ニ於テ拾上ケ

登記目錄書式第四

明治何年加籍目錄

無籍者就籍之部

第號

何村(何番地)

氏名

年號月日生

右無籍之處就籍ス何月何日願濟何月何日届出

登記目錄書式第五

明治何年加籍目錄

他府縣ヨリ入籍之部

第號

何村何番戸平民氏名婦

長男名妻名

年號月日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名次女ヲ娶ル何月何日届出

何月何日入籍報知書發送

第號

何村何番戸士族氏名長男名縁女

名

年號月日生

右何縣何郡何町何番地平民氏名長女ヲ貰受ル何月何日届出何月何日入籍報知書發送

十九年

五百五十五

第號

何町何番戶士族氏名養子

名

年號月日生

右何府何區何町何番地士族氏名次男ヲ貰受シ何月何日届  
出何月何日入籍報知書發送

第號

何町何番戶平民氏名相續人實兄

亡父氏名次男名

年號月日生

右何縣何區何町平民氏名次男ヲ貰受シ何月何日届出何月何  
日入籍報知書發送

第號

何村何番戶平民氏名次男

名

年號月日生

右何府何郡何村何番地平民氏名次男ヲ父名結婚ニ付携帶入  
籍ニ何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第號

何村何番戶士族氏名母

名

年號月日生

右何縣何郡何村何番地士族氏名次女ヲ實母ニ付  
引受シ何月何日願濟何月何日届出何月何日入籍報知書發送  
第號

何町何番戶平民氏名次庶子長男(女)

名

年號月日生

右何縣何區何町何番地平民氏名次女私生(男)女ヲ引受シ

十九年

何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第號 何村何番戶平民氏名三男

名

年號月日生

右何府何區何町何番地平民氏名引受棄兒氏名ヲ引取ル何月何日何地裁判所裁判言渡何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第號

何村何番戶平民氏名引受棄兒

氏名

年號月日生

右何府何郡何村何番地平民氏名引受棄兒ヲ更ニ引受ル何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第號

何村何番戶平民氏名次女

名

年號月日生

右何府何區何町何番地平民氏名妻離婚ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第號

何村何番戶士族氏名三女

名

年號月日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名養女離縁ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第號

何町何番戶平民氏名弟

亡父名三男 名

五百五十九

年號月日生

右何縣何郡何村平民氏名相續人離縁ニ付復籍ス何月何日  
届出何月何日入籍報知書發送

第號

何村何番戶平民氏名孫

長女名長女名

年號月日生

右何縣何郡何町何番地士族氏名長女ヲ妻名離婚ニ付携帶  
入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送  
第號 何村何番戶平民

氏名

年號月日生

年號月日何縣何郡何村何番地士族氏名次女ヲ娶ル

妻名

年號月日生

右何府何區何町士族氏名次男名分家入籍ス何月何日届出  
何月何日入籍報知書發送

第號

何村何番戶士族氏名次男

名

年號月日生

年號月日何縣何區何町何番地平民氏名次女ヲ娶ル

次男名妻

名

年號月日生

同人長男

名

年號月日生

右何府何區何町何番地ニ分家之處復歸入籍ス何月何日届  
出何月何日入籍報知書發送

十九年

第號

何村何番戶士族氏名附籍平民  
亡父名長男 氏名

年號月日生  
亡父名三男 弟名

年號月日生

右何縣何郡何村何番地 附籍 何月何日届出何月何日  
入籍報知書發送

第號

何村何番戶平民

前戶主名 氏名

年號月日生

右何縣何區何町何番地士族氏名附籍之處別立入籍 何月何日届出何月何日入籍報知書發送

第號

何村何番戶平民

氏名

年號月日生

右何府何郡何村何番地平民氏名三男當村何番戶絕家何氏  
再興 何月何日届出何月何日入籍報知書發送  
第號 何町何番戶平民

亡父名長男 氏名

年號月日生

妻 名

年號月日生

長女 名

年號月日生

年號月日何府何區何町何番地平民氏名長女ヲ娶ル

右何縣何區何町何番地ヨリ轉住入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送

登記目錄書式第六

明治何年加籍目錄

他郡區ヨリ入籍之部

登記目錄書式第七

明治何年加籍目錄

他戶長役場管内ヨリ入籍之部

登記目錄書式第八

明治何年除籍目錄

本籍人管内死亡之部

第號

何村何番戶平民氏名母

名

右名何月何日死亡何月何日届出

第號

何村何番戶士族

氏

名

右名何月何日死亡何月何日届出

登記目錄書式第九

明治何年除籍目錄

本籍人管外死亡之部

第號

何村何番戶平民氏名次男

名

右名年號月日何府何區何町ニ於テ死亡何月何日發送届書

何月何日受領

十九年



登記目錄書式第十

明治何年除籍目錄

失踪者及重籍者除籍之部

第號

何町何番戶平民氏名又從弟

名

右名年號月日ヨリ失踪本年何月何日滿八十歲ニ至ルニ付

除籍

第號

何町何番戶平民

氏名

右名八十一歲何ヶ月年號月日ヨリ失踪本年何月何日滿三

十六ヶ月ニ至ルニ付除籍

第號

何町何番戶平民

氏名

右名何縣何郡何村何番地ニ現住シ同村在籍ノ者ニ付何月

何日何町除籍何月何日願濟何月何日届出

第號

何町何番戶士族氏名三男

名

右名年號月日何縣何郡何村何番地平民氏名養子トナリ同

町在籍ノ者ニ付何月何日當町除籍

登記目錄書式第十一

明治何年除籍目錄

他府縣ニ送籍之部

第號

何村何番戶平民氏名妹

父名三女名

十九年

右何府何區何町何番地平民氏名妻ニ嫁ス何月何日送籍狀  
發送何月何日入籍報知書受領

第號

何村何番戶平民氏名長女

名

右何縣何郡何村何番地士族氏名長男名縁女トナル何月何  
日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第號

何村何番戶平民氏名次男

名

右何縣何區何町何番地士族氏名養子トナル何月何日送籍  
狀發送何月何日入籍報知書受領

第號

何村何番戶平民氏名弟

父名四男 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名實兄ニ付相續人トナル何  
月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第號

何村何番戶士族氏名甥

弟名長男 名

右何縣何區何町士族氏名ト弟名結婚ニ付携帶送籍ス何月  
何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第號

何村何番戶士族氏名叔母

亡祖名父三女 名

右何府何郡何村何番地士族氏名實母ニ付引受トナル何月  
何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第號

何村何番戶平民氏名次女名私生男(女)

名

右何府何郡何村何番地平民氏名庶子トナル何月何日送籍  
狀發送何月何日入籍報知書受領

第號 何村何番戶平民氏名引受棄兒 氏名

右何縣何郡何村何番地平民名三男ナルコト發覺シ年號月  
日何地何裁判所裁判言渡ニ付引渡ス何月何日送籍狀發送  
何月何日入籍報知書受領

第號 何村何番戶平民氏名引受棄兒 氏名

右何縣何區何町何番地平民氏名更ニ引受シ何月何日送籍  
狀發送何月何日入籍報知書受領

第號 何村何番戶士族氏名妻

名

右何縣何郡何村何番地平民氏名次女離婚ニ付送籍ス何月  
何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第號 何村何番戶平民氏名養女

名

右何縣何區何町何番地平民氏名三女離婚ニ付送籍ス何月  
何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第號 何村何番戶士族氏名相續人實兄

亡父名次男名

右何縣何區何町何番地平民氏名伯父離婚ニ付送籍ス何月  
何日願濟何月何日届出何月何日送籍狀發送何月何日入籍  
報知書受領

第號

何村何番戶平民氏名長女

名

右何縣何郡何村何番地平民氏名孫妻名離縁一付携帶送籍  
又何月何日願濟何月何日届出何月何日送籍狀發送何月何  
日入籍報知書受領

第號

何村何番戶士族氏名次男

名

妻

名

右何府何郡何町何番地一<sub>レ</sub>分家送籍又何月何日願濟何月何  
日届出何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領

第號

何村何番戶平民

氏

名

妻

名

長男

名

右何縣何郡何町何番地士族氏名次男分家ノ處廢家ノ上復  
歸送籍又何月何日願濟何月何日届出何月何日送籍狀發送  
何月何日入籍報知書受領

第號

何村何番戶平民

氏名  
亡父名四男  
弟名

右何縣何郡何村何番地士族氏名方一<sub>レ</sub>附籍又何月何日送籍  
狀發送何月何日入籍報知書受領

第號

何村何番戶士族氏名附籍平民

氏

名

十九年